

# 第 14 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

## 日本語の上達を支援する教育実践の創造

— IT を有効に活用したチームでの教育実践の可能性 —

### 報告書

大阪大学 国際教育交流センター

2022 年（令和 4 年）2 月 15 日

# 第 14 回大阪大学専門日本語教育研究協議会

## 目 次

|                                                                         |     |
|-------------------------------------------------------------------------|-----|
| プログラム                                                                   | 1   |
| 背景および趣旨                                                                 | 2   |
| 趣旨説明と問題提起                                                               |     |
| 国際教育交流センター准教授 難波 康治                                                     | 3   |
| 講演 1：日本語教育・日本語学習支援における IT 活用の可能性と課題<br>－より充実した連携と学習効果の向上のために－           |     |
| 早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授<br>李 在鎬                                            | 4   |
| 質疑応答 1                                                                  | 68  |
| 講演 2：日本語学習者の自学自習と教師のサポートを組み合わせたオンラインコースの制作と運用<br>－学びを支援するコースデザインと教師の役割－ |     |
| 国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員主任<br>熊野 七絵                                       | 69  |
| 質疑応答 2                                                                  | 173 |
| 全体討論                                                                    | 174 |
| 付録： 過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況                                            | 179 |

## 第14回大阪大学専門日本語教育研究協議会

日時：2022年2月15日（火）13:30～17:00

オンラインで開催

主 催：大阪大学国際教育交流センター

「日本語の上達を支援する教育実践の創造 ― IT を有効に活用したチームでの教育実践の可能性―」

13:30～13:35 開会の挨拶 国際教育交流センター センター長 有川 友子

総合司会 大谷 晋也（国際教育交流センター 准教授）

13:35～13:50 趣旨説明と問題提起

国際教育交流センター准教授 難波 康治

13:50～14:50 講演1：日本語教育・日本語学習支援における IT 活用の可能性と課題

―より充実した連携と学習効果の向上のために―

早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授 李 在鎬

14:15～15:50 講演2：日本語学習者の自学自習と教師のサポートを組み合わせたオンライン

コースの制作と運用

―学びを支援するコースデザインと教師の役割―

国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員主任 熊野 七絵

15:50～16:10

休 憩

16:10～16:55 全体討論： 全体討論司会 西口 光一（国際教育交流センター教授）

李 在鎬（早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授）

熊野 七絵（国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員主任）

義永美央子（国際教育交流センター教授）

16:55～17:00 閉会の挨拶 国際教育交流センター 副センター長 村岡 貴子

## 第14回大阪大学専門日本語教育研究協議会

### 「日本語の上達を支援する教育実践の創造

#### ー ITを有効に活用したチームでの教育実践の可能性」

主催 大阪大学国際教育交流センター

#### 背景および趣旨

日本語学校か大学かを問わず日本語教育では、そして特に入門・基礎や中級までの学習段階では、一つのコースやクラスを複数の教員が担当することがおおむね一般的です。そうしたチームでの教育実践は、日本語教育ではチームティーチングと呼ばれています。チーム〇〇（チームティーチング、チーム医療など）と言う場合の重要要素は、(a)メンバー各々が専門性や「得意部分」を発揮しながら、(b)共有の目標を協働的に達成することです。日本語や言語教育一般でのチームティーチングでは、(b)の「共有の目標」と「協働的に達成」という部分がまず強調されなければならないでしょう。

一方で、コロナ禍をきっかけに、日本語教育では「デジタルディバイド」が一層進んだように思います。ここに言うデジタルディバイドとは、視覚資料を作成してZoomなどを「窓」として基本は従来と類似した方法で授業を展開する教師がいる一方で、この機会に多種多様なIT技術を駆使してダイナミックに授業を展開する「ITエキスパート・プレーヤー」が増えたことです。そして、後者は実際にはチームの一員として教育実践をするというよりも「ソロプレーヤー」として活躍しており、前者は従来のカリキュラム等の中で授業を実践している人です。この両者が大きく「分断」されていることから、それぞれがそれぞれの道を行くというような状況ができてくつあるように見受けられます。

コロナ後のITが普及した現在及び将来の日本語教育の一つの大きな研究課題は、(1)チームで教育を実践する場合に学習と教育の運営でどのようにITを利用し、(2)具体的な教育の実践としてITを通したオンデマンド学習や学習資材の提供と課題の提出及び対面授業の実施をどのように組み合わせ、(3)学習活動や教授活動でどのようなITの活用を推奨・促進すれば、学生における日本語の上達を有効に促進・支援することができるかを検討することです。

本研究協議会では、そのようなテーマをめぐって、同方面で実践経験・研究経験が豊富な講演者である、早稲田大学の李在鎬先生と国際交流基金関西国際センターの熊野七絵先生からお話をうかがい協議することを通して、今後の日本語教育の企画、教材の制作と提供、授業の実践のあり方などを広い視野で検討したいと思っています。



## 趣旨説明と問題提起

難波康治

大阪大学国際教育交流センター 准教授

※当日ビデオでプレゼンテーションを行った

## 講演 1

日本語教育・日本語学習支援における IT 活用の可能性と課題

－より充実した連携と学習効果の向上のために－

李 在鎬

早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授

2022/2/15

第14回 大阪大学 専門日本語教育研究協議会

**日本語教育・日本語学習支援におけるIT活用の可能性と課題**  
**ーより充実した連携と学習効果の向上のためにー**

李在鎬（りじえほ）



## コロナ禍で出現した多様な教師像

- コロナ禍をきっかけに、日本語教育では「デジタルディバイド」が一層進んだように思います。ここに言うデジタルディバイドとは、視覚資料を作成してZoomなどを「窓」として基本は**従来と類似した方法で授業を展開する教師**がいる一方で、この機会に**多種多様なIT技術を駆使してダイナミックに授業を展開する「ITエキスパート・プレーヤー」**が増えたことです。そして、後者は実際にはチームの一員として教育実践をするというよりも「ソロプレーヤー」として活躍しており、前者は従来のカリキュラム等の中で授業を実践している人です。この両者が大きく「分断」されていることから、それぞれがそれぞれの道を行くというような状況ができつつあるように見受けられます。

→パンデミックによって2種類のプレーヤーの存在が露呈。  
より普遍的な視点で見ると日本語教師の専門性へ

## 日本語教育人材の養成・研修の在り方について

(報告)

改定版

平成31年3月4日

文化審議会国語分科会

### 2 専門家としての日本語教師に求められる資質・能力

専門家としての日本語教師に求められる資質・能力として、次のような点が重要である。

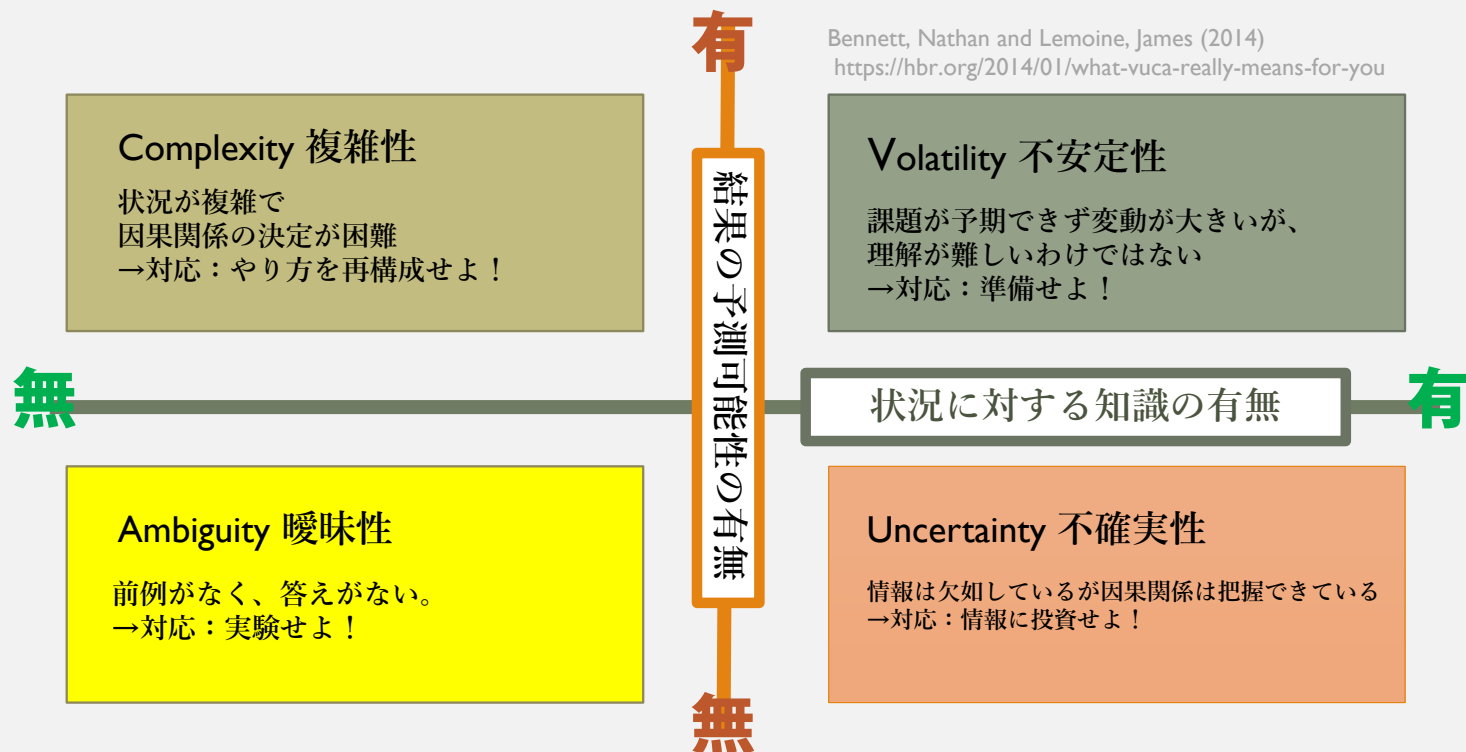
- (1) 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。
- (2) 日本語だけでなく多様な言語や文化に対して、深い関心と鋭い感覚を有していること。
- (3) 国際的な活動を行う教育者として、グローバルな視野を持ち、豊かな教養と人間性を備えていること。
- (4) 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱を有し、常に学び続ける態度を有していること。
- (5) 日本語教育を通じた人間の成長と発達に対する深い理解と関心を有していること。

<sup>17</sup> 日本語教育とは、広い意味で、コミュニケーションそのものであり、教師と学習者とが固定的な関係でなく、相互に学び、教え合う実践的なコミュニケーション活動と考えられる。

**コロナ禍で自身の変化をどう評価しますか？**

# コロナ禍の教育、VUCAワールド

現代社会は「マサカ」の連続。コロナ禍の2年を振り返るための視座。





# 話題

1. オンライン教育を支えるICT
2. テクノロジーがもたらす社会の変化と新しいコミュニケーション
3. ものとしてのICT、スキルとしてのICT
4. アカデミックリーディングの実践事例の紹介



# 狙い

- 明日からの授業でこういうツール使えますよ、役立ちますよ、便利ですよ、という話ではなく、
- ICTによって**変わる教育環境**に対して、私たち教師はどう振る舞ったら良いかについて考えます。
- 結論ではなく、**考える題材**を提供するつもりで話していきます。

→ コロナ禍の教育を振り返り、

**ICTによる教育の理論と実践を把握**

# 2021年の名古屋外大主催の講演会の資料を再構成したもの

# ICTを取り巻く変化

1. 1990年代 IT「Information Technology」：インターネット、Windows95
2. 2000年代 ICT「Information and Communication Technology」：ノートPCの軽量化、3G通信、タブレットの登場、iPhone
3. 2010年代 IoT「Internet of Things」：SNSの全盛期、AlphaGoの登場、深層学習
4. 2020年代、AIとロボットの時代

# ICTを取り巻く変化

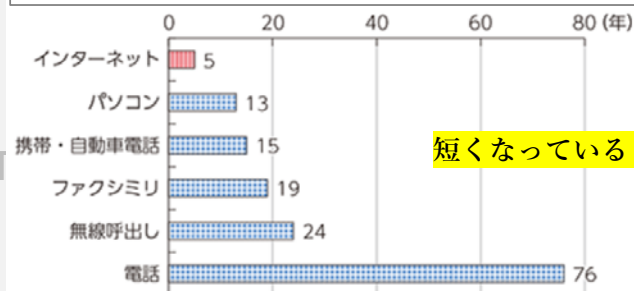
## I. 1990年代 IT「Information Technology」：インターネット、Windows95

図表1-1-2-2 ISDN回線数の推移

単位：万回線



全世帯での普及率が10%になるまでかかった年数



(出典) 平成11年版通信白書

単位：年

短くなっていることに注目！



4. 2020年代、AIとロボットの時代

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/html/nc111210.html>

**ISDN** (Integrated Services Digital Network、サービス総合デジタル網)

# ICTを取り巻く変化

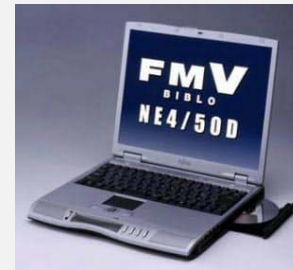
1. 1990年代 IT「Information Technology」：インターネット、Windows95
2. 2000年代 ICT「Information and Communication Technology」：ノートPCの軽量化、3G通信、タブレットの登場、iPhone



1984



1998

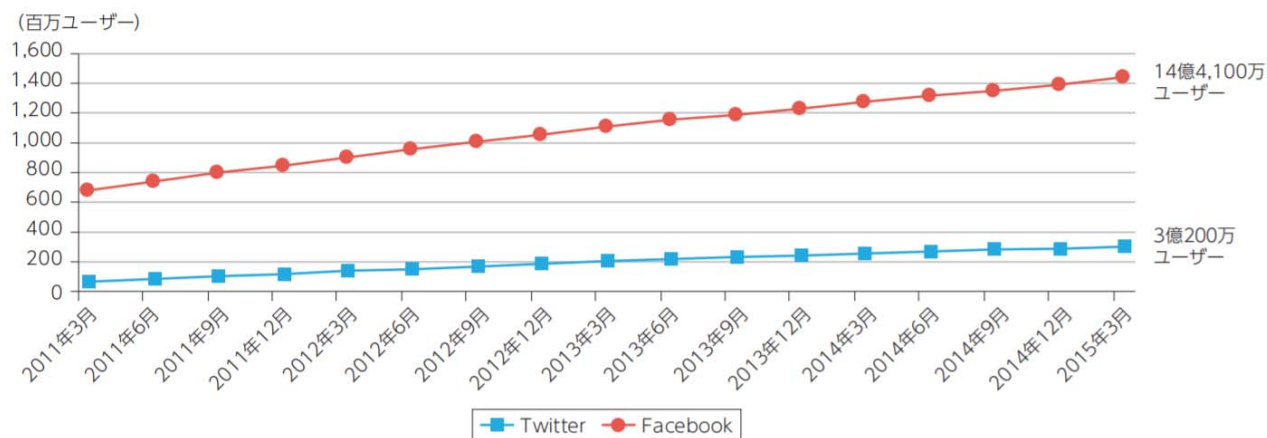


2000



2007

図表4-2-1-2 Facebook、Twitterのユーザー数の推移



<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/n420000.pdf>

### 3. 2010年代 IoT「Internet of Things」：SNSの全盛期、AlphaGoの登場、 深層学習

### 4. 2020年代、AIとロボットの時代



# ICTの特性

1. 1990年代 IT「Information Technology」：インターネット、Windows95
2. 2000年代 ICT「Information and Communication Technology」：ノートPCの軽量化、3G通信、タブレットの登場
3. 2010年代 IoT「Internet of Things」  
深層学習
4. 2020年代、AIとロボットの時代  
教えたこと、同じように繰り返す程度の作業であればほとんどのことはできる



読売新聞2022.1.26.円を描くようにお湯を注ぎます...北京五輪でロボット活躍

<https://www.yomiuri.co.jp/olympic/2022/20220126-OYTIT50225/>

# ICTを取り巻く変化

- ICTを取り巻く変化（時系列でみる）
  1. 1990年代、IT「Information Technology」：PCやインターネットの普及により加速。PCやインターネット、通信インフラなどを用いた「情報技術」のこと
  2. 2000年代 ICT「Information and Communication Technology」：コミュニケーションの要素が入った。「人と人」「人とモノ」の情報伝達がより強調。ITはコンピュータ関連の技術、ICTはコンピュータ技術の活用方法を指す言葉として使い分ける
  3. 2010年代、IoT「Internet of Things」：ありとあらゆる「モノ」がインターネットとつながる仕組みや技術
  4. 2020年代、AIとロボットの時代：複雑な課題解決のためAIが積極的に活用され、人と共存共生





## 海外に赴く日本語教師【初任】研修における教育内容

|          |       |                     |                                                                                           |
|----------|-------|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言語に関わる領域 | 言語と教育 | ⑩言語教育法・実習           | (8) 演習<br>・対象別指導法<br>・教材分析・教材作成<br>・評価法<br>・授業観察・模擬授業<br>・振り返り・自己点検<br>・シラバス・カリキュラム作成・改善* |
|          |       | ⑪異文化間教育とコミュニケーション教育 | (9) 異文化マネージメント<br>・異文化理解教育<br>・コミュニケーションに関する言語・文化間対照                                      |
|          |       | ⑫言語教育と情報            | (10) 教材・教具のリソース<br>・e ラーニング, ICT ツール (SNS など)                                             |

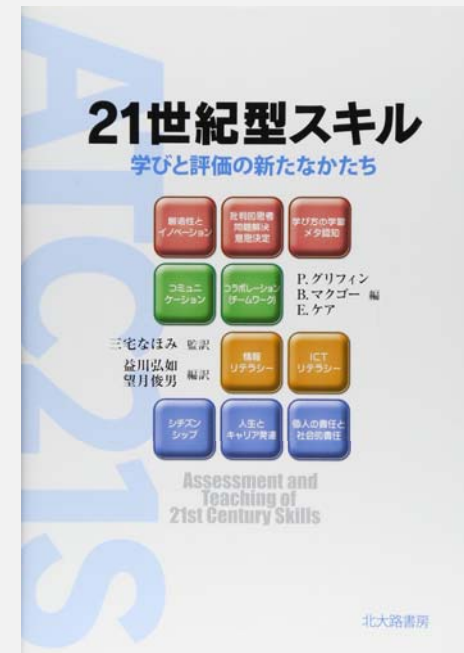
- ・ スキルとしてのICT：言語に関わる領域→言語と教育→言語教育と情報
- ・ 教材・教具と関連づけられている

## ICTをキーワードにした書籍



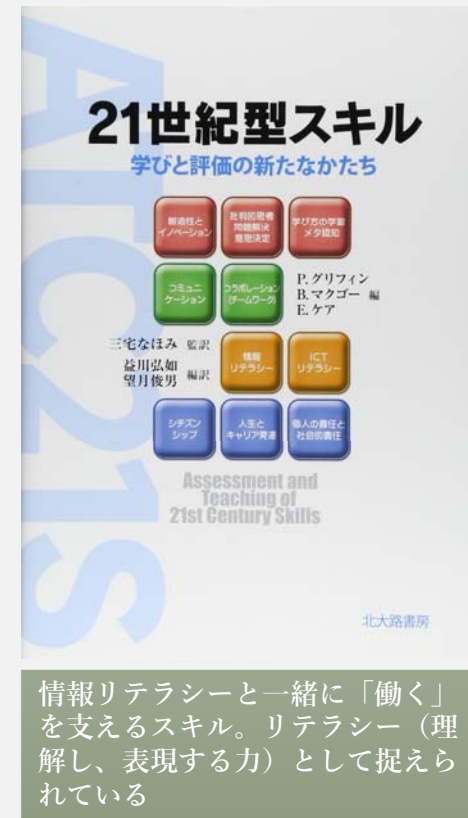
## 21世紀型スキル

- ATC21Sプロジェクト
  - モノづくり（工業・農業）を基盤とする社会から知識・情報を基盤とする社会へと変化
  - 教育の在り方を考える。
  - 新しい能力論として



## 21世紀型スキル

- 思考の方法
  1. 創造性とイノベーション
  2. 批判的思考、問題解決、意思決定
  3. 学び方の学習、メタ認知
- 働く方法
  4. コミュニケーション
  5. コラボレーション（チームワーク）
- 働くためのツール
  6. 情報リテラシー（ソース、証拠、バイアスに関する研究を含む）
  7. ICTリテラシー
- 世界の中で生きる
  8. 地域とグローバルの良い市民であること（シチズンシップ）
  9. 人生とキャリア発達
  10. 個人の責任と社会的責任（異文化理解と異文化適応能力を含む）



## 21世紀型スキル

### 知識

特定の知識にフォーカス

- ICTを利用し評価する：ソフトウェアを理解する。現実世界と仮想世界の差異に気づく
- メディアを分析する：メディアの目的を理解する。
- メディアを制作する：制作ツール、メディアの特性を利用する。最適な表現方法を理解する

### 技能

育成にフォーカスしたもの

- ICTを利用し評価する：ICTツールを批判的に評価する
- 情報活用し管理する：課題解決のために正確かつ創造的にICTを利用する
- メディアを制作する：メディアの特性、解釈を活用する
- 効率的にテクノロジーを適用する

### 態度・価値・倫理

行動や適性にフォーカスしたもの

- ICTを利用し、評価する：新しいメディアに対して開かれた態度をとる
- 情報を活用し管理する：守秘義務やプライバシー保護に配慮。偏見を持たない
- 正確かつ誠実にテクノロジーを活用する」

# ICTの特性

1. 開放性：時間・空間を超える
2. 遠隔性・再現性（中川・苑2017）：仮想空間でのやり取り
3. 双方向性：相互に情報の発信・受信のやりとりができる。コミュニケーションの観点から重要



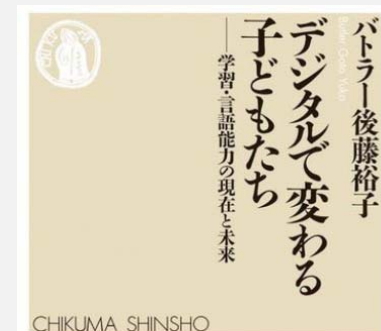
<https://ua-book.shop-pro.jp/?pid=159284779>

# 方向性

- アナログのコミュニケーションツール：電話，手紙，書籍，新聞，放送

1. 一対一のコミュニケーション
2. 一対多のコミュニケーション

- コミュニケーションとしての特性：  
発信者と受信者が明確，一方向的



<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480073969/>

# 方向性

- デジタルのコミュニケーション：多数対多数のやり取り

→受信者であり送信者である

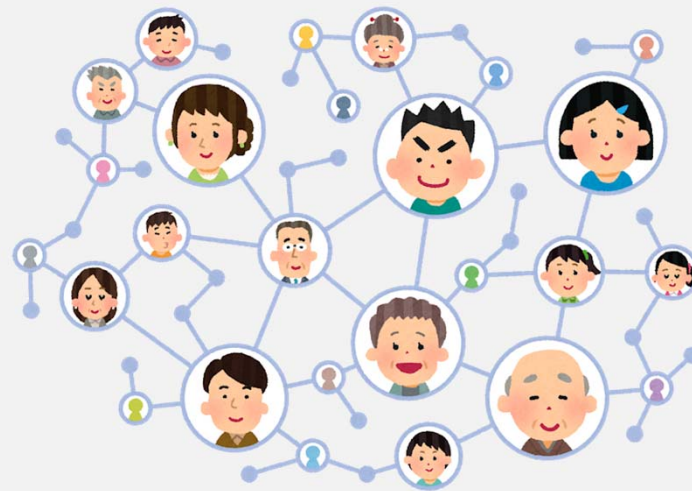
- 音声や文字を以外のツール

1. 良いね, シェア, リツイート

2. 絵文字, スタンプ

3. アバター, 分身

→新しいコミュニケーションの形を作ってる





# 方向性

- コロナ禍の教育の救世主「ZOOM」
  1. 新しいコミュニケーションの形を作ったことは評価
  2. ミュート&カメラオフ。壁に向かって喋っているような感覚。→孤独感、間の解釈が難しい。
  3. 同時に話せない。→新たな気づき：傾聴すること、簡潔かつ論理的に話すことが重要

# 一方向性・双方向性

4. 使えるコミュニケーションリソースが限定的。非言語情報（視線、相手の表情、あいづち）が活用できない。

オンライン会議が盛り上がらないのはなぜ？



## 社会

- 2020.2.3 ダイヤモンド・プリンセス号
- 2020.3.11 COVID-19パンデミック宣言
- 2020.4.7 緊急事態宣言
- 2020.4～5. 特別定額給付金10万円
- 2020.6.19 厚労省接触アプリ
- 2020.7.2 東京で感染者100人超え
- 2020.7.22 GoToキャンペーン開始
- 2020.8. 欧州で感染再拡大
- 2020.9. 英米でワクチン開発の加速化
- 2020.11. 米国でワクチンの承認申請
- 2020.12. GoToの停止
- 2021.1. 二度目の緊急事態宣言
- 2021.2～3. 国内でワクチン接種開始
- 2021.4. 変異ウィルスデルタ株の流行
- 2021.6. 新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの積極的な活用(総務省)
- 2021.12 DX推進に関する各種調査の報告
- 2022.1 オミクロン株による世界的な感染拡大

## 教育界（特に大学）

- 2020.4-5：授業がオンラインを準備することに。
  - NIIの「大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関するサイバーシンポジウム」
  - FB「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」
- 2020.5-6：ZOOMになれつつも「ZOOM疲れ」
- 2020.6-7：学生たちによる授業料返還要望
- 2020.8-9：学会のオンライン化
- 2020.9-10：オンラインの定着（秋学期～）
- 2020.10：アフターコロナの教育
- 2020.11：大学における対面授業の要請。対面が半分以下の大学名は公表する方針（文科省）
- 2021.1～：ハイブリッド、ハイフレックス（Hybrid-Flexible）
- 2021.4～：部分的に対面授業
- 2021.9～：対面授業が再開

## 社会

- 2020.2.3 ダイヤモンド・プリンセス号
- 2020.3.11 COVID-19パンデミック宣言
- 2020.4.7 緊急事態宣言
- 2020.4～5. 特別定額給付金10万円
- 2020.6.19 厚労省接触アプリ
- 2020.7.2 東京で感染者100人超え
- 2020.7.22 GoToキャンペーン開始
- 2020.8. 欧州で感染再拡大
- 2020.9. 英米でワクチン開発の加速化
- 2020.11. 米国でワクチンの承認申請
- 2020.12. GoToの停止
- 2021.1. 二度目の緊急事態宣言
- 2021.2～3. 国内でワクチン接種開始
- 2021.4. 変異ウィルスデルタ株の流行
- 2021.6. 新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの積極的な活用(総務省)
- 2021.12 DX推進に関する各種調査の報告
- 2022.1 オミクロン株による世界的な感染拡大

## 教育界（特に大学）

- 2020.4-5：授業がオンラインを準備することに。

### 1. あ〜大変だ、どうしよう

- FB「新型コロナのインパクトを受け、大学教員は何をすべきか、何をしたいかについて知恵と情報を共有するグループ」
- 2020.5-6：ZOOMになれつつも「ZOOM疲れ」

### 2. 慣れてきたぞ

- 2020.6-7：大学等における授業料返還要望
- 2020.8-9：学会のオンライン化
- 2020.9-10：オンラインの定着（秋学期～）
- 2020.10：アフターコロナの教育

### 3. 便利だね

- 2020.11：大学における対面授業の要請。対面が半分以下の大学名は公表する方針（文科省）
- 2021.1～：ハイブリッド、ハイフレックス（Hybrid-Flexible）

### 4. やっぱり対面が良いね

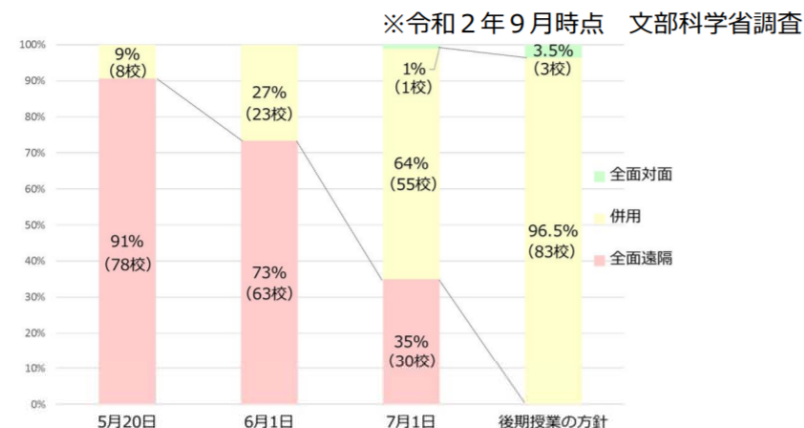
- 2021.4～：部分的に対面授業
- 2021.9～：対面授業が再開

## 1. 現状

### 大学等の授業の実施状況 ①授業実施形態の推移

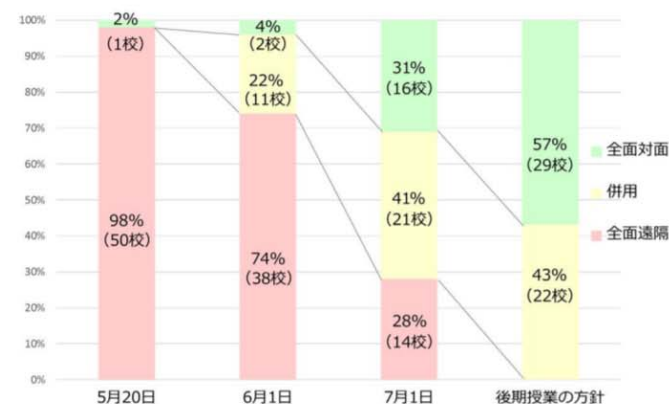
#### 国立大学（全86校）

- 5月時点では、授業を実施する国立大学のうち約9割が全面的な遠隔授業を実施。
- 全面遠隔授業の割合は、徐々に減少している。
- それに代わり、対面と遠隔を組み合わせた授業の実施割合が増加している（後期授業では9割以上）。



#### 国立高等専門学校（全51校）

- 5月時点では、授業を実施する国立高専のうち9割以上が全面的な遠隔授業を実施。
- 全面遠隔授業の割合は、徐々に減少している。
- それに代わり、対面と遠隔を組み合わせた授業の実施割合が増加している（後期授業では4割以上）。





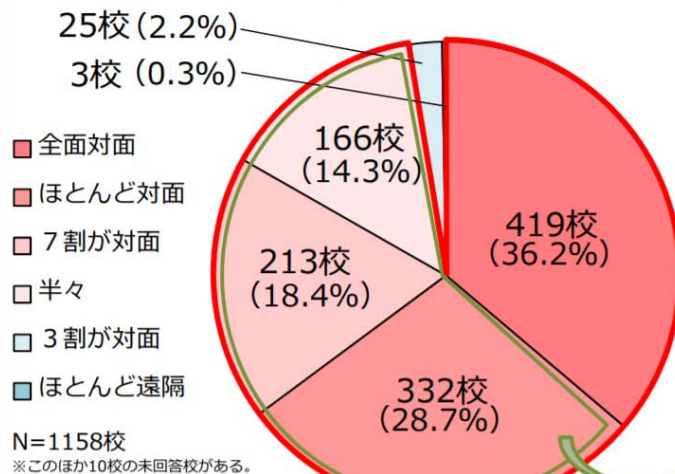
## 令和3年度後期の大学等における授業の実施方針等について

### (調査の概要)

- 調査対象：全国の国公私立大学（短期大学を含む）及び高等専門学校
- 調査時点：令和3年10月7日（**調査時点での令和3年度後期の授業実施方針等**について質問）
- 調査趣旨：各大学等の令和3年度後期の授業の実施方針等について調査し、全国の状況を把握するもの。

### 令和3年度後期における対面・遠隔授業の実施方針

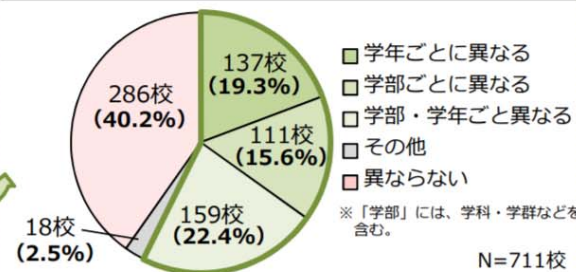
- 半分以上を対面授業とする予定とした大学等**は、1158校中1130校（**約97.6%**）。  
中でも、**7割以上を対面授業とする予定とした大学等**は964校と、全体の**約83.2%**にのぼる。



※ 10月7日時点で、現に授業をどのような形態で実施しているかを尋ねたところ、半分以上を対面授業で行う大学等の割合は約85.6%となっており、一部区域で直前まで実施されていた緊急事態宣言等の影響と考えられる。

※ 「全面对面」とは、感染対策を講じつつ、コロナ禍前と同じ範囲で対面授業を行っているものを指す。「ほとんど対面」は8割以上を対面授業としているもの、「ほとんど遠隔」は対面授業が2割以下の状況を指す。

- ・ 対面・遠隔授業を併用するが、全体の半分以上を対面授業で行う予定とする大学のうち、**約6割は、学部や学年によって授業形態に差があると回答**。
- ・ 詳細についての自由記述からは、前期の調査結果と同様、履修人数の多い授業については、教室の収容定員との関係から遠隔授業にならざるを得ない等の回答が多数見られたが、1・2年生など低学年の学生に対して優先的に対面授業を行うとする回答もあった。

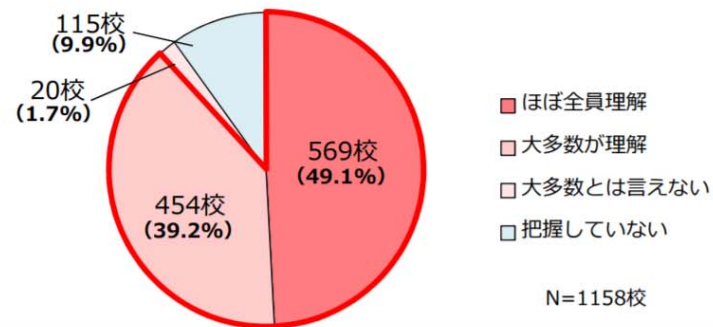


→ 極端にキャンパスに通う機会が少ない学部・学年が生じることのないよう、引き続き、**低学年の学生への配慮を含めて、丁寧な対応を行うことが必要**。

## 大学等における令和3年度後期の授業実施方針等に関する調査（参考データ）

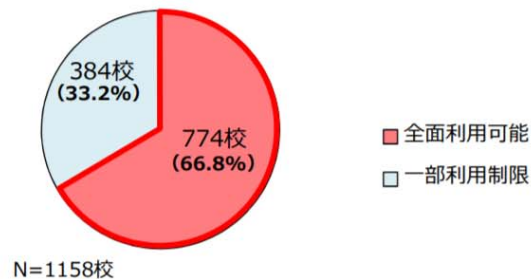
### 学生の理解・納得の状況

○自校の授業実施方針等について、学生のほぼ全員又は大多数が理解・納得していると回答する大学等は**全体の約9割**。



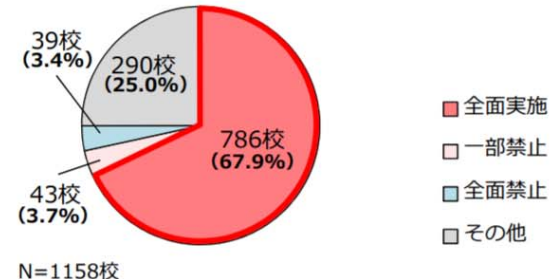
### 施設の使用可否の状況

○学内施設の利用を全面的に可能とする方針の大学等は、**全体の約7割**。残りの約3割では、施設利用の一部を制限予定。



### 運動部活動の状況

○**約7割の大学等**は感染対策を講じた上で運動部活動を全面的に実施する方針であり、一部・全部を禁止するのは約1割。

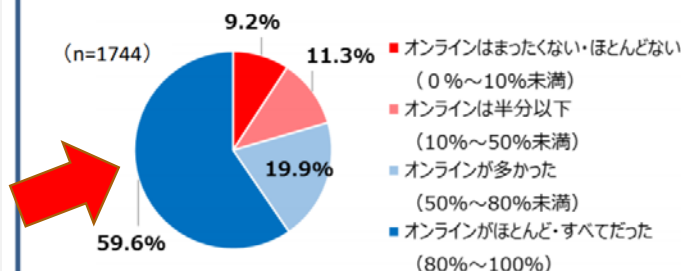


# 1. オンライン授業について

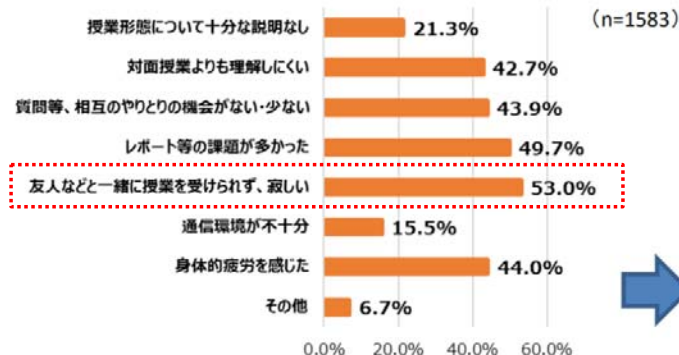
- 令和2年度後期に履修した授業のうち、**オンライン授業がほとんど又はすべてだったと回答した学生は、全体の6割。**
- **全体的な満足度としては、不満を感じる割合より満足を感じる割合の方が多い。**
- オンライン授業について、良かった点として、**自分の選んだ場所で授業を受けられることや、自分のペースで学修できること**が多く回答された一方で、悪かった点として、**友人と受けられない、レポート等の課題が多い、質問等双方向のやりとりの機会が少ない、対面授業より理解しにくい**などが多く回答された。

## (1) オンライン授業の割合（令和2年度後期）※択一選択

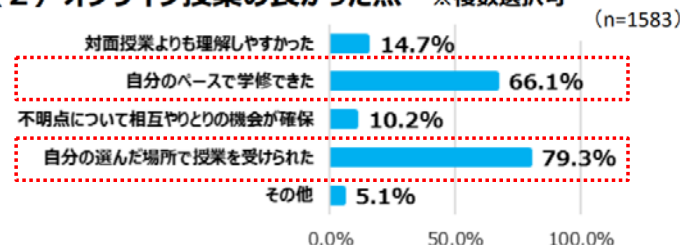
以前実施した、令和2年度後期授業の実施方針における調査では、「ほとんど遠隔」と回答した大学等は約15%であったが、学生の履修した科目から見ると、ほとんどオンラインだった学生は6割にのぼった。



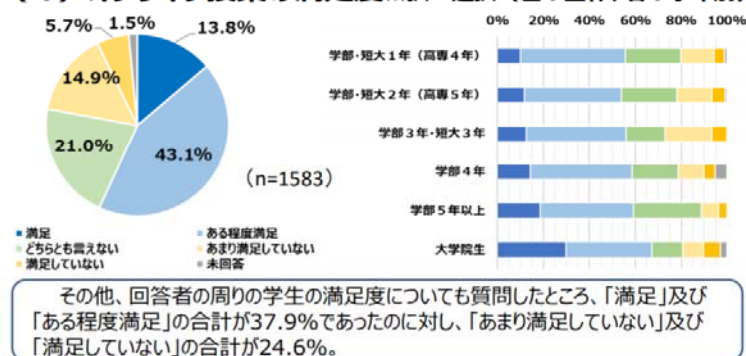
## (3) オンライン授業の悪かった点 ※複数選択可



## (2) オンライン授業の良かった点 ※複数選択可



## (4) オンライン授業の満足度※択一選択（左：全体、右：学年別）



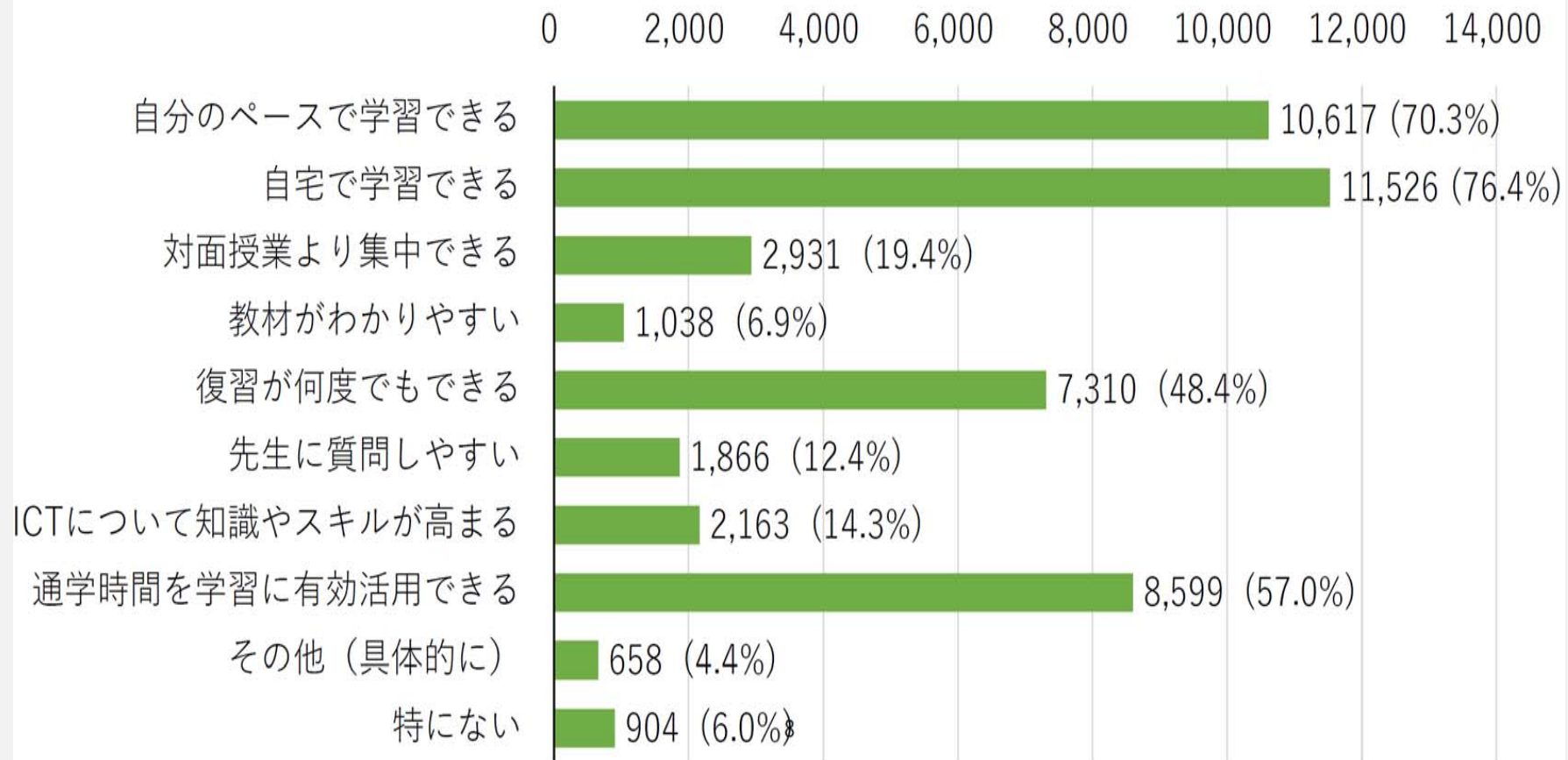
理解のしにくさや、人との関わりがないことなど教育の質に関わる課題等により不満を持つ学生もあり（満足していない：5.7%、あまり満足していない：14.9%）、オンライン授業の実施に当たっては、学生の声を丁寧に聞き、質の向上に努めることが必要。



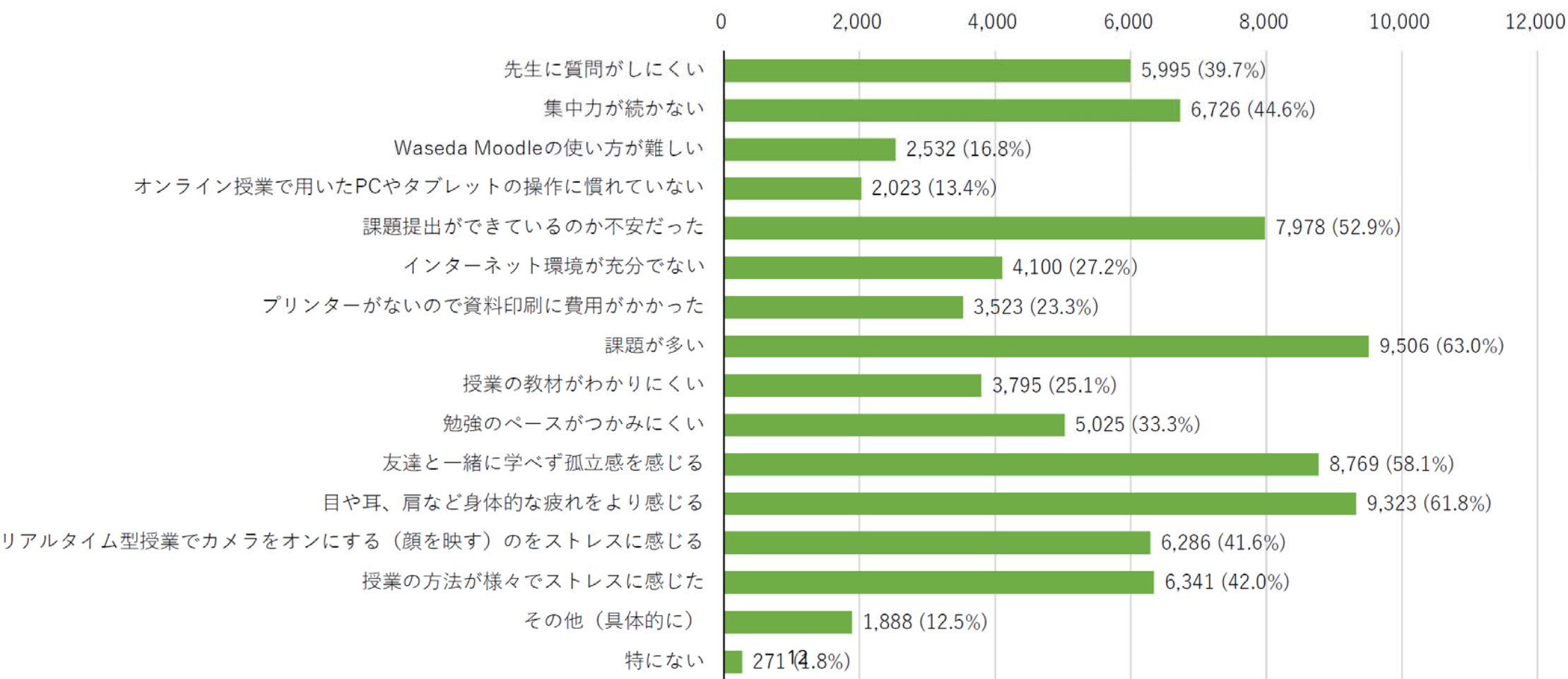
## コロナ禍によるオンライン授業の受け止め

- 回答総数： 学生；15,093名 教員；2,120名
- 92.2%の学生が「有益なオンライン授業」ありと回答
  1. 教員からのフィードバックや学生との双方向のやりとり
  2. 時間を有効に使える点や再視聴可能な点が有益
- 73.7%の学生が「満足いかない授業」ありと回答
  1. 教員と学生、学生どうしのコミュニケーションが不十分
  2. 課題の量、身体的な疲れ、孤独感などの改善が必要

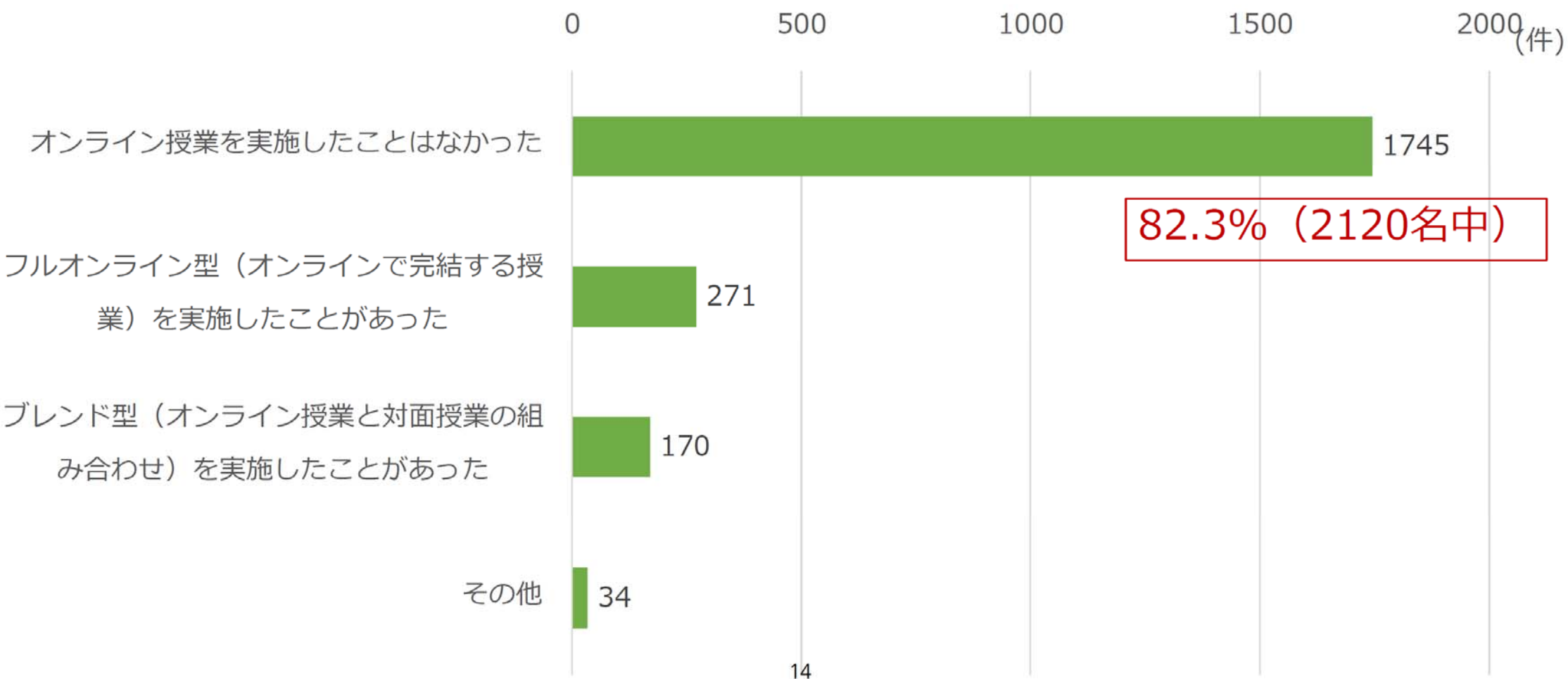
## Q16 オンライン授業のメリット（複数回答）



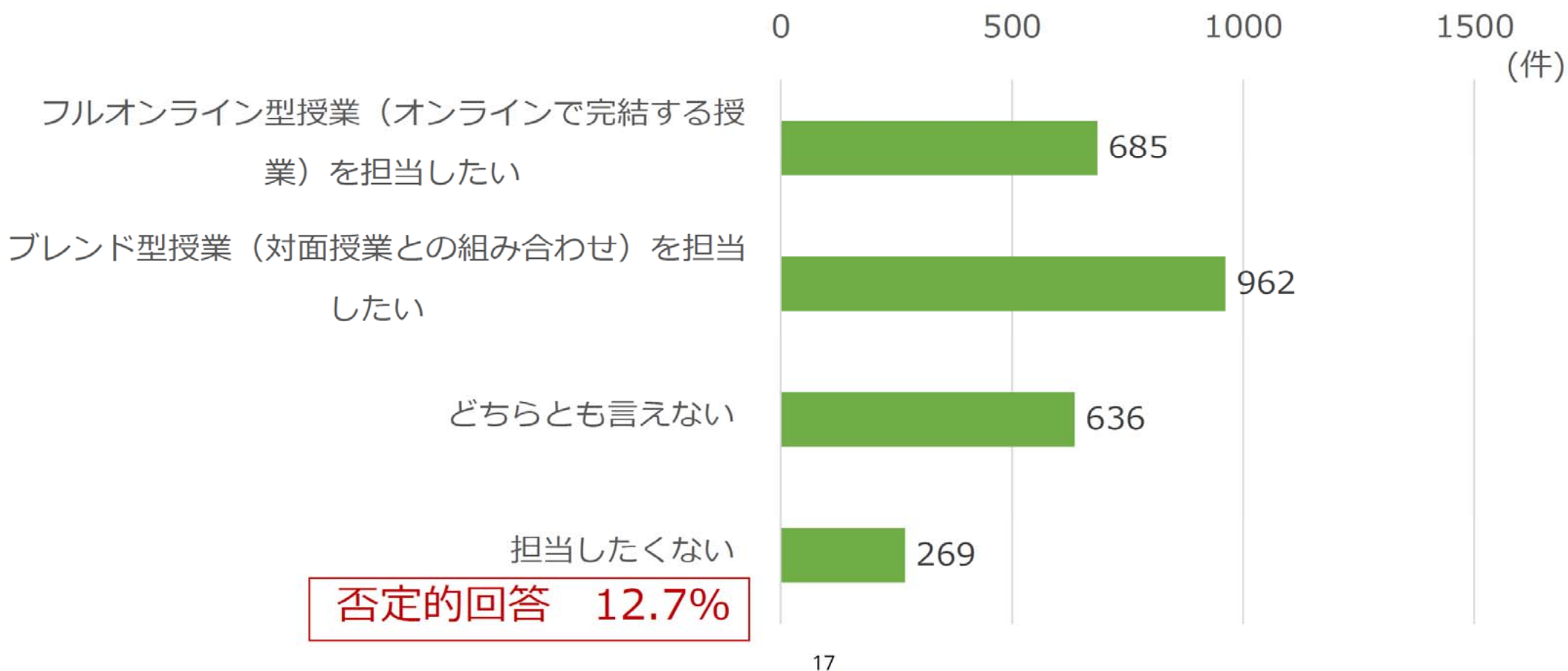
# Q17 「改善してほしい」授業



# Q01 教員のオンライン授業経験



## Q20 オンライン授業の今後の担当



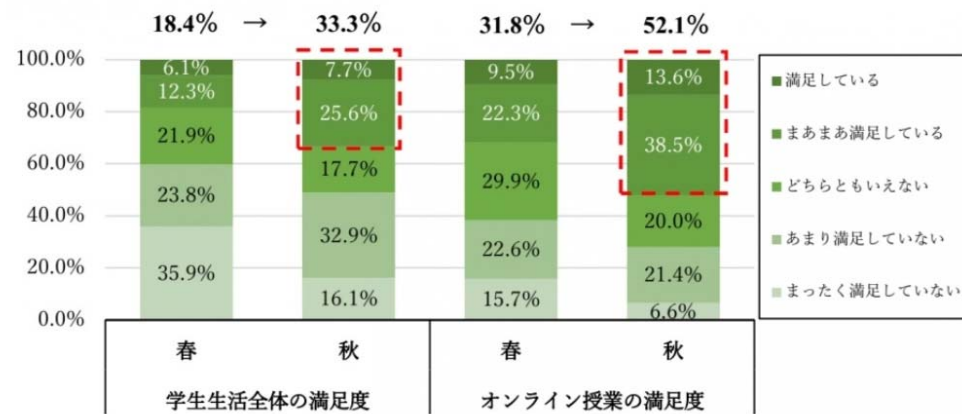


図1 満足度の春秋比較

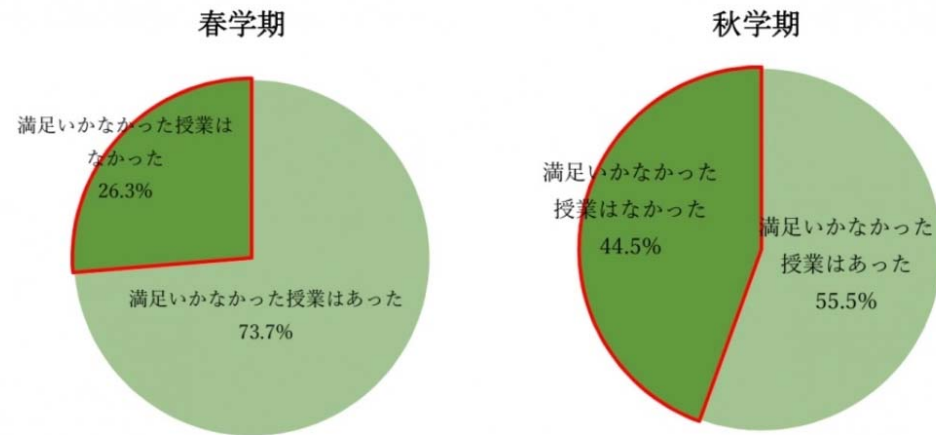


図2 満足いかなかった授業の有無

注) %は回答母数に対する割合

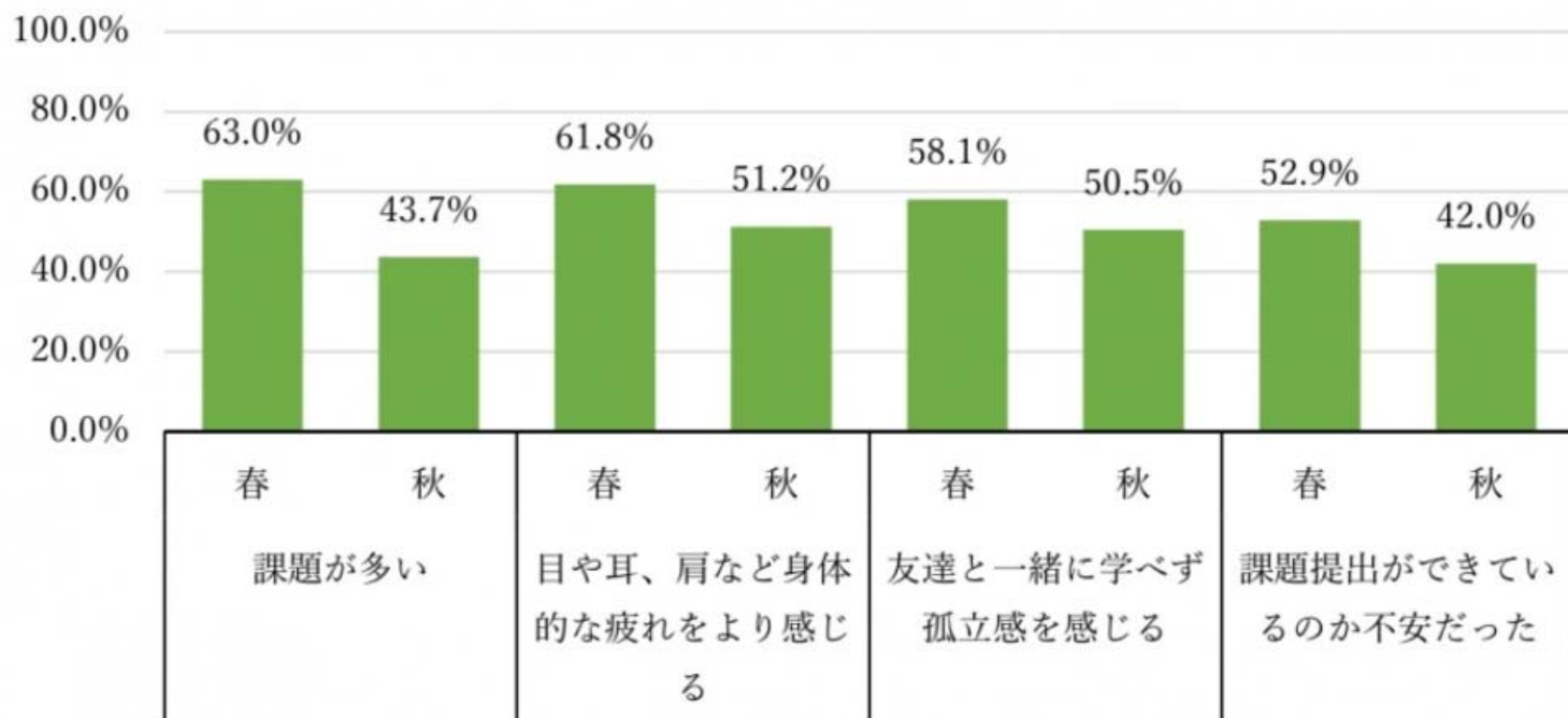


図3 オンライン授業の改善点の春秋比較

## テクノロジー利用における必然

- コロナ禍の1年間で教育は進化。
- 知識を学ぶだけならオンラインでOK
- 人類とテクノロジー：人間は一度、便利さに気付いたものからは離れられない。
  1. 鉄道, 車, 飛行機, インターネット, 人工知能
  2. Zoom, Teams, Cisco Webinars
  3. Moodle, Google クラスルーム
- コロナ禍の今：オンライン教育やそのテクノロジーと、どう付き合っていくかを考えるべき時期



The background is a dense, abstract pattern of organic, cell-like shapes in various shades of green and blue. In the upper right corner, there are three brown icons: a circle with a triangle inside, a circle with a question mark inside, and a large semi-circle below them. A white rectangular box is centered horizontally, containing the text "ICTと理論".

# ICTと理論

## 学習理論

|               | 行動主義           | 認知主義               | 構成主義           |
|---------------|----------------|--------------------|----------------|
| 時代            | 1950－1980      | 1980－2000          | 2000－          |
| 重要視する<br>ポイント | 訓練/修得させる<br>指導 | 効率よく記憶す<br>る勉強     | 知識を構成する<br>力   |
| 一般化・<br>モデル化  | 強化の法則          | 絶対的知識，テ<br>ストによる測定 | 真正な学習，協<br>調学習 |
| 学習観           | 知識伝承           | 学習効率               | 学習支援           |

# 構成主義と学習とICT

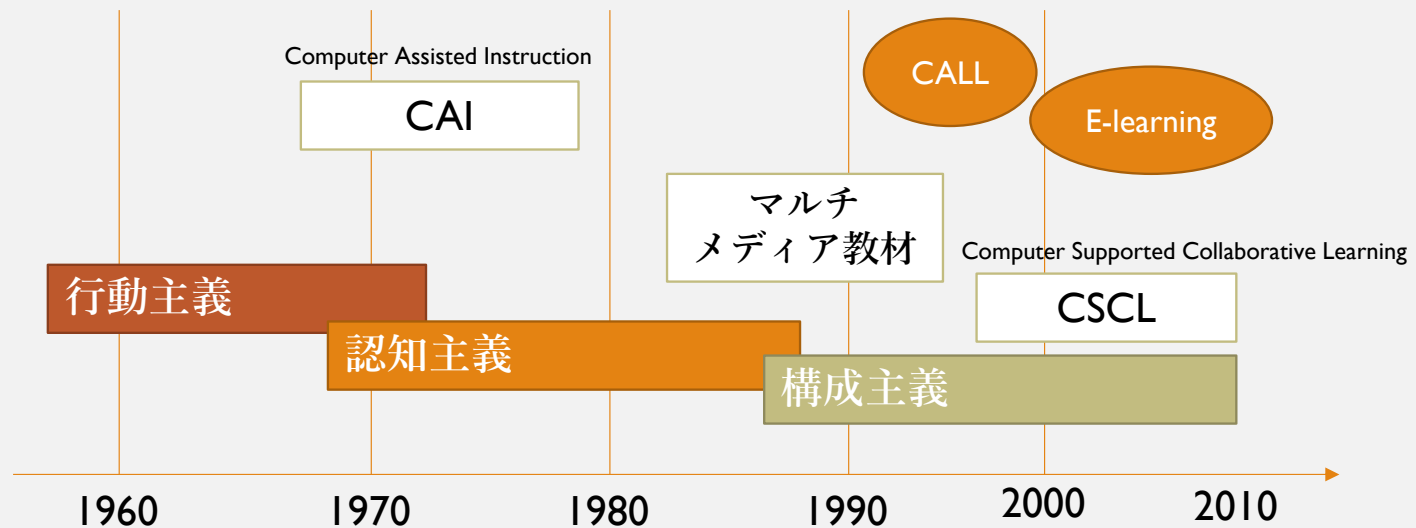
| 従来型の学校教育                       | 構成主義の学習                                     | Web2.0の特徴         |
|--------------------------------|---------------------------------------------|-------------------|
| 教師中心の情報管理                      | 学習者中心の学習<br>学習者自身が知識を構成する                   | ユーザーの手による情報の自由な整理 |
| 教科書と教師が唯一の情報源                  | 豊かな学習環境<br>様々なツールやコンテンツが活用できる豊かな学習環境の中で学習する | リッチなユーザー体験        |
| 知識の受け皿としての学習者                  | 学習コミュニティの形成<br>多様な視点、多様な価値観を提供しあい、相互に貢献する。  | 貢献者としてのユーザー       |
| 個々人の学習ニーズは考慮されない。パッケージ化された知識のみ | 細かな学習ニーズに対応<br>多様な学習者のニーズに合った学習を展開する        | ロングテイル            |
| 知識は教師から学習者へ。学習者は知識をため込む容器      | 参加型の学習<br>水平方向の情報の流れ・相互作用を通して知を創造する         | ユーザー参加            |
| 信頼のおけるのは教師のみ。学習者は無知で信頼がおけない    | 協同のための信頼<br>多様な視点、多様な価値観のもと、学習者間で状況を提供しあう   | 根本的な信頼            |
| 教師に知識と権威が集中                    | 自律的な学習<br>学習者が自律的に学び、相互作業を大切にする             | 分散性               |



水越・久保田（編）（2008:22）

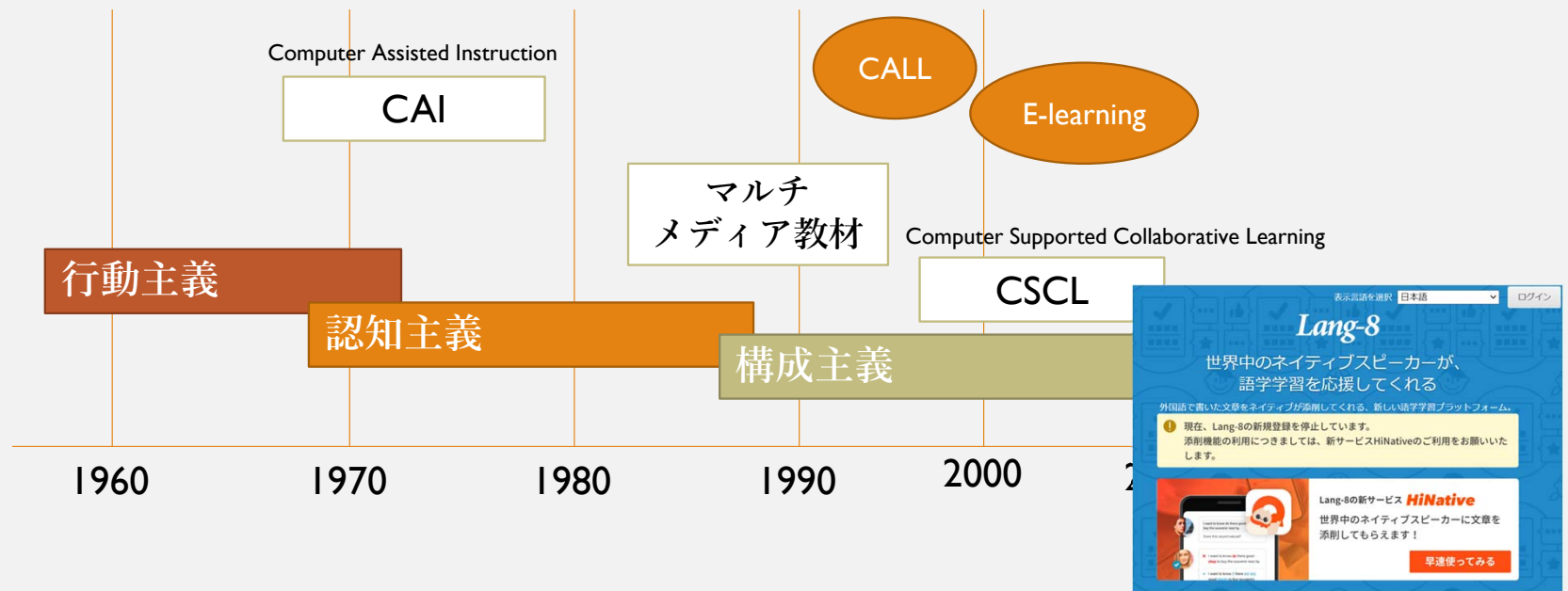
# 学習理論とテクノロジー

- コンピュータと教育の進化史（山内2010）



# 学習理論とテクノロジー

- コンピュータと教育の進化史（山内2010）



## 基本は不変

- 現在の学習指導におけるICT活用は行動主義、認知主義、社会構成主義を継承。ICTメディアの利用環境が変わっただけで、根底にある構造や思想は変化してない。現在は、個別の支援方法は「枯れたもの」であっても組み合わせ方や(コンテンツの) 届け方の工夫にイノベーションの重点が置かれている（山内2020:108-109）。



▼ 講義 1 1 12/6~12/11 【キーワード編】 ことばを学ぶ：個人の  
観点から  

 講義11の進め方 ☒

 講義11のための動画 ☒

 講義 1 1 の内容確認テスト ☒

 調べ学習課題 ☒

 エピソード課題 ☒

 自分課題（相互コメントあり） ☒

 講義資料（PDF） ☒

 総括 ☒

▼ 講義 1 1 12/6~12/11 【キーワード編】 ことばを学ぶ：個人の  
観点から

|                                                                                                    |         |                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------------------------------|
|  講義11の進め方         |         | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  講義11のための動画       | マルチメディア | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  講義 1 1 の内容確認テスト  | CAI     | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  調べ学習課題           | CSCL    | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  エピソード課題          |         | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  自分課題（相互コメントあり） |         | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  講義資料（PDF）      |         | <input checked="" type="checkbox"/> |
|  総括             |         | <input checked="" type="checkbox"/> |



# ICTがもたらした変化

- ICTの進化による学習環境の変化
  1. 以前は知識は教師・専門家が持っていたもの。
  2. 今は（知識は）ウェブに存在。学習者も教師も共有（→Wikipedia）
    - 反転授業の例：知識の伝達はウェブで。知識の運用は教室で。
- 教師をの立ち位置を再定義する
  1. 知識の伝達者から案内者へ
  2. コンテンツの作成者からコンテンツの評価者・案内者へ

# コロナ禍での実践

アカデミックリーディングを例に

## 実践紹介

- 何を：「アカデミックリーディング3～4」（初級後半・中級前半）
- いつ：2016年～
- 誰が：教師李・大学院生3～6名、学生コロナ前35名、コロナ後8～20名
- どこで：コロナ前 対面教室、コロナ後 オンライン
- どうやって：
  1. 教材：留学生の日本語読解編
  2. コロナ前：多様なICTツールを使用しながら、対話型の授業
  3. コロナ後：2020はオンデマンド、2021はライブ配信（Zoom）
- なぜ：高等教育をうける学生たち（e.g.,日本学）の読解力向上のため



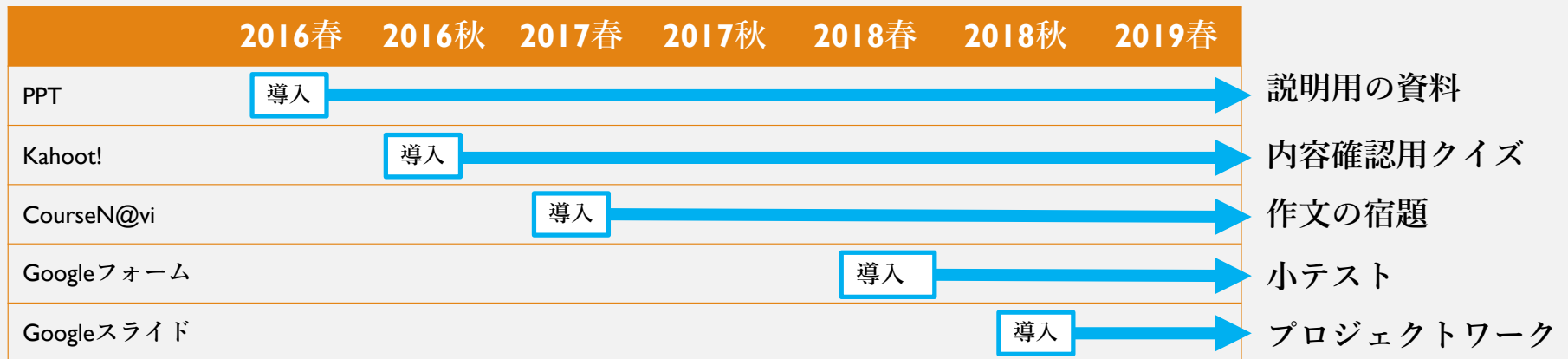
# テーマ

- 1回目：ガイダンス。
- 2回目：言葉の役割
- 3回目：イルカと超音波
- 4回目：地図の分類
- 5回目：睡眠時間—短眠と長眠
- 6回目：日時計：空間と時間の座標
- 7回目：研究者の二つのタイプ
- 8回目：地球温暖化
- 9回目：風呂場の戸：日本の住環境
- 10回目：私の本棚プロジェクト（準備）
- 11回目：手で数を表す：身体の人類学
- 12回目：文明はどのように伝わったか「茶」
- 13回目：私の本棚プロジェクト（準備）
- 14回目：私の本棚プロジェクト（発表）
- 15回目：私の本棚プロジェクト（発表）

生教材を部分的にリライトしたものがほとんど

# コロナ前

- 「書く」から「打つ」へ：目指したのは漸次的ペーパーレス化



## コロナ前

- 「書く」から「打つ」へ：得られた効果

|             | 教授者側の効果                                      | 日本語学習者側の効果                            |
|-------------|----------------------------------------------|---------------------------------------|
| Google Form | 紙を使った煩雑さ（印刷&採点&記録&返却）がなくなる<br>→ <b>エコな授業</b> | テスト直後にフィードバックがもらえる<br>→ <b>気づきの促進</b> |
| CourseN @vi | 実習生（TA）と共同作業がシンプルになった。<br>→ <b>負担軽減</b>      | 課題の締切について意識化<br>→ <b>計画的・自律的学習</b>    |
| Kahoot!     | フィードバックの時間が短縮<br>→ <b>授業時間の効率化</b>           | ゲーム感覚で学習できる<br>→ <b>肯定的競争でモチベーション</b> |

# コロナ後

1. 教科書のPDFと出版社への相談
2. 学生たちにコンテンツ作成
3. 調べ学習の積極的な導入
4. データ分析による検証

# コロナ後

## 1. 教科書のPDFと出版社への相談

## 2. 学生たちにコンテンツ作成

## 3. 調べ学習の積極的な導入

## 4. データ分析による検証

弊社出版物の遠隔授業でのご利用について 受信トレイ

早稲田大学  
李在編様

いつもお世話になっております。  
アルクの佐々木と申します。  
日本語教育学会やJALP関連で何度かお目にかかっております。

お問い合わせいただきました『改訂版 大学・大学院留学生の日本語1 読解編』の  
遠隔授業でのご利用について、私から改めて連絡させていただきます。

40名ほどの授業でご利用で、10名前後が教科書入手不可の可能性があるとのことですが、  
基本的には後日購入いただくことを条件に著者に許諾をいただいておりますので  
先に弊社から著者へ連絡を取り、このような条件で許諾いただけるか確認して  
改めてご連絡させていただきます。

なお、弊社制作部より連絡しました誓約書は、学生一人一人にご提出いただくのではなく  
担当教員の李さんのお名前でご提出をお願いする予定です。

週間には改めての回答ができると思いますので、少しお時間くださいませ。  
どうぞよろしくお願いいたします。

—

株式会社アルク 日本語事業部



# コロナ後

1. 教科書のPDFと出版社への相談
2. 学生たちにコンテンツ作成
3. 調べ学習の積極的な導入
4. データ分析による検証

## ▼ 講義 3 : 教科書の第 2 課(5/27)

 講義 3 の進め方

 STEP1 : 第 2 課 (イルカと超音波) の音声

 STEP2 : 音読した音声の投稿フォーム

 STEP3、講義動画 1 を見る

 STEP4・STEP5 : 内容課題と相互評価のフォーム

 STEP6、講義動画 2 を見る

 STEP7、テストを受けます

 STEP8、作文を書きます

 講義 3 のためのセッション

# コロナ後

1. 教科書のPDFと出版社への相談

2. 学生たちにコンテンツ作成

3. 調べ学習の積極的な導入

4. データ分析による検証

## STEP4, 調べ学習

質問5)

ことばと文化, ことばと思考に関する言語学の仮説として, 言語相対説 (Theory of linguistic relativity) というものがあります。サピア=ウォーフの仮説 (Sapir-Whorf hypothesis) とも言います。インターネットで言語相対説を調べてみてください。そして, どんなことが書いてあるのか, 300字で要約してください。

- ポイント1 : 言語相対説の定義を書いてください。
- ポイント2 : 言語相対説がなぜ仮説のままかを書いてください。
- ポイント3 : 段落を作ってください。
- ポイント4 : 自分のグループのスレッドに投稿してください。

参考資料 :

<https://www.quora.com/What-are-the-main-criticisms-of-Whorfs-theory-of-linguistic-determinism-and-relativity>

<https://www.encyclopedia.com/social-sciences-and-law/sociology-and-social-reform/sociology-general-terms-and-concepts/theory-linguistic-relativity>

パーマリンク 親投稿を表示する 編集 分割 削除

返信 ポートフォリオにエクスポートする

# コロナ後

1. 教科書のPDFと出版社への相談

2. 学生たちにコンテンツ作成

3. 調べ学習の積極的な導入

4. データ分析による検証

## STEP

言語相対説というのは、アメリカの言語学者、サピアとウォーフが1930年代に提出した、言語学と心理学に関する仮説である。主な論点は、人は世界を認識する方法や観点は、使う言語によって異なっているという。すなわち、人は言語に基づいて、世界を認識することである。

ことばと文化、ただし、この仮説をめぐる反論もよく見られている。その一つはlinguistic relativism「通訳」である。仮に人の世界への認識は言語に繋がっていたとしたWhorf hypothesisら、違う言語の通訳はほぼ不可能しか考えられない。言語相対説によ

さい。そして、すると、違う言語は世界への認識がそれぞれだから、すでに自分の母語を通じて世界を認識した人に対して、他の言語（つまり、他の見方）を勉強し、さらに通訳するのは極めて難しいという。しかし、現実にはそうではない。通訳するのは日常生活でもよく見られていることだ。

■ポイント1：言語相対説は重要な仮説であるが、完璧な理論ではないと思われる。

参考資料：

<https://www.quora.com/What-are-the-main-criticisms-of-Whorfs-theory-of-linguistic-determinism-and-relativity>

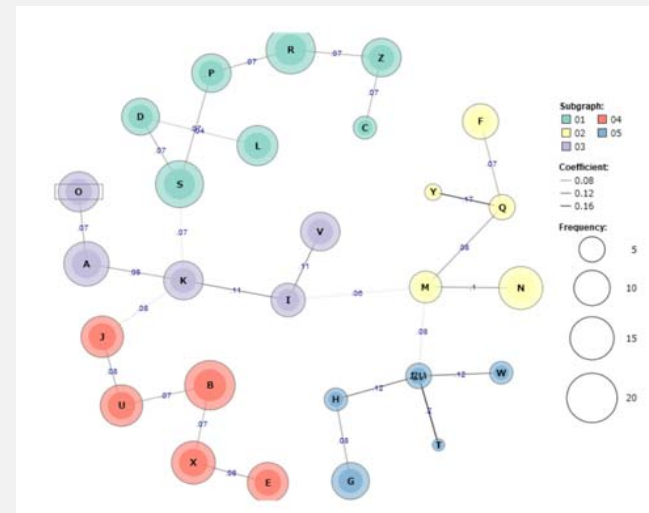
<https://www.encyclopedia.com/social-sciences-and-law/sociology-and-social-reform/sociology-general-terms-and-concepts/theory-linguistic-relativity>

バーマリンク 親投稿を表示する 編集 分割 削除

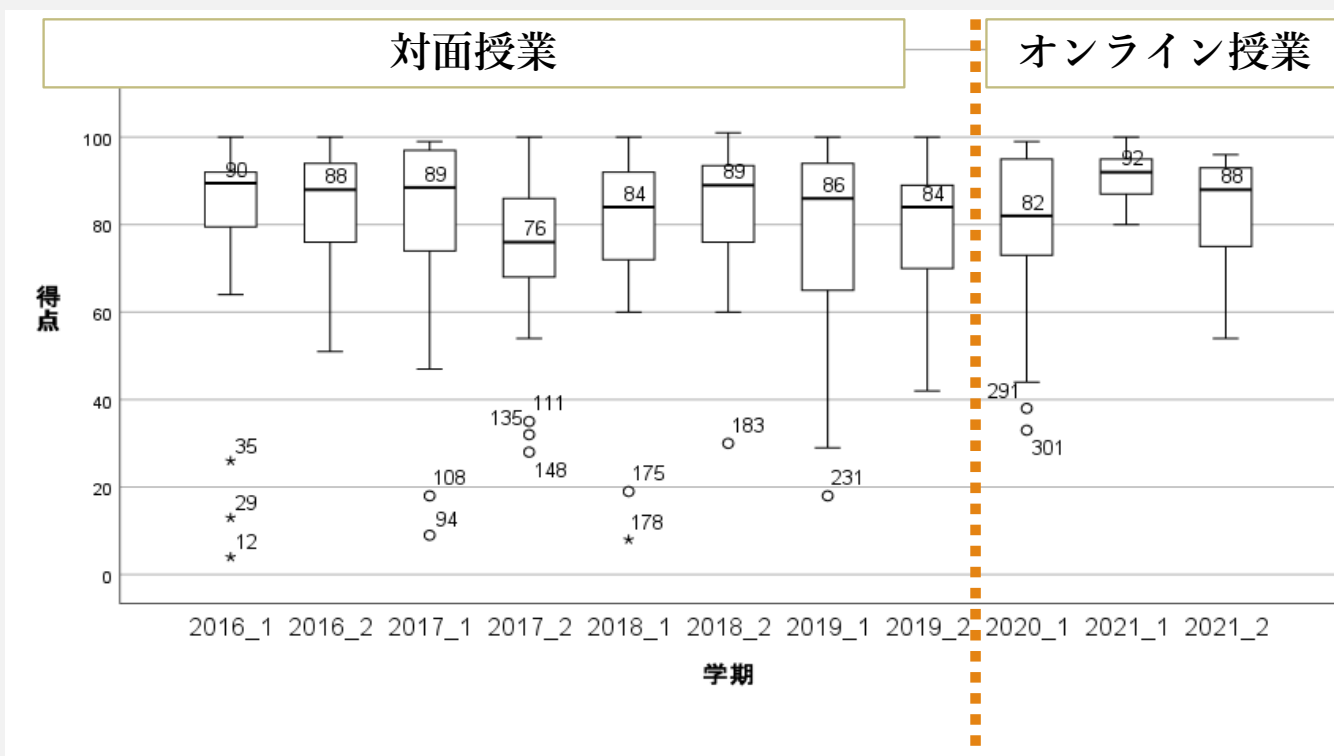
返信 ポートフォリオにエクスポートする

# コロナ後

1. 教科書のPDFと出版社への相談
2. 学生たちにコンテンツ作成
3. 調べ学習の積極的な導入
4. データ分析による検証



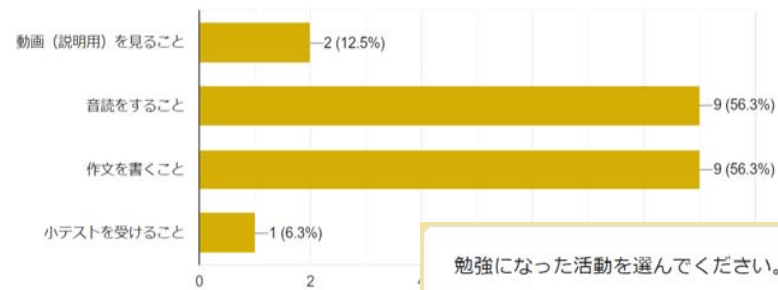
# コロナ前後



# コロナ禍の学習活動

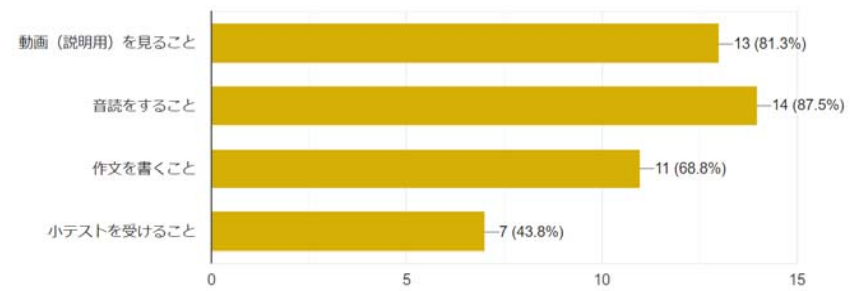
大変だった活動を選んでください。

16 件の回答



勉強になった活動を選んでください。

16 件の回答



## 関連する研究

[https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_snippet&index\\_id=3869&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page\\_id=13&block\\_id=21](https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=3869&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21)

### 【特集】大学院日本語教育研究科における「オンライン授業」の実際

緒言：本特集の企画趣旨

..... 小林 ミナ・館岡 洋子・池上 摩希子 i

「オンライン授業」の背景

..... 小林 ミナ 1

実践報告：理論研究科目「日本語教育学入門」

..... 李 在鎬 7

実践報告：理論研究科目「日本語教育学方法論」

..... 李 在鎬・小林 ミナ 13

実践報告：理論研究科目「学習環境デザイン論」

..... 館岡 洋子 19

実践報告：理論研究科目「言語コーパス論」

..... 李 在鎬 25

実践報告：理論研究科目「言語教育政策論」

..... 宮崎 里司 31

実践報告：「日本語教育実践研究（1）」

..... 池上 摩希子 37

実践報告：「日本語教育実践研究（2）」

..... 蒲谷 宏 43

実践報告：「日本語教育実践研究（5）」

..... 小林 ミナ 49

実践報告：「日本語教育実践研究（9）」

..... 館岡 洋子 55

実践報告：「日本語教育実践研究（10）」

..... 戸田 貴子 61

実践報告：「日本語教育実践研究（12）」

..... 宮崎 里司 67

実践報告：「基礎演習・演習Ⅰ」

..... 福島 青史 73

実践報告：「応用演習・演習Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ」

..... 館岡 洋子・池上 摩希子・小林 ミナ 79

## 最後に



<https://ggsoku.com/2013/01/i-omaru/>

- I. デジタルネイティブに必要な言語教育を考える。
  - PPTが板書を, LMSが授業を, ZOOMが対話をかえる時代に生きてる。
  - 新しい学びの理論, 新しい教育の理論が必要。「良い授業」の再定義





$$E=mc^2$$

ありがとうございました

李在鎬 (りじえほ)  
lee@waseda.jp

## 質疑応答 1

司会：事実確認のような短い質問を受け付けたい。

フロア 1：音読は、オーディオを提出させたということなのか。

李：学生たちは教科書のテキストを音読して、スマホで録音してアップロードした。

## 講演 2

日本語学習者の自学自習と教師のサポートを組み合わせた  
オンラインコースの制作と運用

熊野 七絵

国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員主任

第14回 大阪大学専門日本語教育研究協議会  
2022年2月15日(火) 13:30-17:00 (オンライン)

講演 2 : 日本語学習者の自学自習と教師のサポートを  
組み合わせたオンラインコースの制作と運用  
ー学びを支援するコースデザインと教師の役割ー

講師：熊野七絵 Nanae\_Kumano@jpf.go.jp  
(国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員主任)

# 自己紹介

## 【略歴】

- 広島大学大学院修了。広島大学留学生センター、広島国際センター、民間日本語学校等で非常勤講師
- 2001年より現職。海外は、米国（JALEXプログラム）、タイ（JFバンコク日本文化センター）、スペイン（JFマドリード日本文化センター）

## 【教材】

- 『初級からの日本語スピーチ』
- 『日本語ドキドキ体験交流活動集』ほか



## 【eラーニング】

- **サイト**「アニメ・マンガの日本語」
- **コース**「みなと」上の「日本語コース」（例「まるごとコース」「スピーチコース」）  
「いそどり日本語オンラインコース」
- **アプリ**「HIRAGANA/KATAKANA/KANJI Memory Hint」

# 講演の流れ

1. KCの日本語研修と「みなと」の日本語コース
2. 「みなと」のコースデザインの流れ
3. 分析：ニーズの確認、ペルソナ設定
4. 設計：Can-do目標、学習ステップと学習要素、評価と修了要件
5. コースデザイン事例：教師サポート付きコース  
「まるごとA1（かつどう・りかい）」  
「スピーチA2（観光）」「アニメ・マンガA2（学校場面）」
6. 開発：自学自習（非同期）用の教材
7. 開発：ライブレッスン（同期）用の教材、教案
8. 実施：教師の役割（全体像の可視化、自学自習サポート、フィードバック、人とつながる場づくり）
9. ITを有効に活用したチームでの教育実践に向けて

# 1.KCの日本語研修と「みなと」の日本語コース

# 日本語研修と教材開発 (KC)

- 日本語研修

専門日本語研修 (外交官 研究者)  
日本語学習者訪日研修



体験・交流

専門・個別

自律・継続

- eラーニング・開発教材



電子書籍  
無料公開！



<https://kansai.jpf.go.jp/>



# 国際交流基金 日本語学習eラーニングの概要

## 【プラットフォーム】「JFにほんごeラーニング みなと」



様々な日本語学習オンラインコースを提供するプラットフォーム。いつでもどこでもインターネットを通じて日本語を学べる機会を提供。学習者同士が交流できるコミュニティ機能も設置。JF海外拠点が独自にコースを制作、運用することも可能。みなとを活用して運用する各種オンラインコースは以下を中心に年間約160コースを開講。  
【英・西・中・インドネシア・タイ・ベトナム・日】

### ●まるごとオンラインコース



日本語と文化をまるごと学び、総合的な日本語力をつける「みなと」のメインコース。JFが開発したコースブック『まるごと 日本のことばと文化』のシラバスに沿い、オンラインで自学自習できる。初學者向け入門（A1）レベルから初級（A2）レベルまで開講。日本語をゼロから学び始めて、レベルアップを図ることができる。 【英・西・中・インドネシア・タイ・ベトナム・仏・葡・日】

### ●「ひらがな・カタカナ」コース

インタラクティブな教材で、ひらがなやカタカナの読み書きを一通り学ぶ自習コース  
【英・西】

### ●「アニメ・マンガの日本語」コース

「アニメ・マンガの日本語」サイトの素材を活用して、キャラクターやジャンル別の日本語表現などを学ぶコース  
【英・西・中・インドネシア・タイ・ベトナム】

### ●「華道・書道・茶道」コース

動画とクイズで華道・書道の基本と生け方、書き方を学び、実際に体験もできる自習コース  
【英】

### ●海外拠点によるコース

JF海外拠点が独自に開講する日本語オンラインコース

## 【ウェブサイト】

### まるごとプラス（まるごと+）



『まるごと』で学ぶ人の自習をサポートするサイト。各種練習を行ったり、日本の生活や文化が学べるサイト 【英・西・日】

### アニメ・マンガの日本語



アニメ・マンガでよく使われるキャラクターやジャンルの日本語を楽しく学べるサイト  
【英・西・中・韓・仏・日】

## 【スマートフォン用アプリ】

### HIRAGANA/KATAKANA Memory Hint



連想イラストで「ひらがな」「カタカナ」を楽しく覚え、クイズで確認できるアプリ  
【英・インドネシア・タイ】

### ひろがる もっといろんな日本と日本語



学習者が自分の興味があるトピックから日本語と日本文化を学べるサイト 【英・日】

### 「エリンが挑戦！ にほんごできます。」コンテンツライブラリー



若い学習者を対象に制作された日本語映像教材で日本語と日本文化を学べるサイト【英・日】

### KANJI Memory Hint 1,2,3



漢字の形を連想させるイラストと2種類のゲームで楽しく漢字を学べるアプリ  
【英】

### NIHONGO eな



日本語学習に役立つサイトやアプリをわかりやすく紹介するポータルサイト  
【英・日】

### いどろ日本語オンラインコース



日本の生活場面で必要な日本語のコミュニケーション力を身につけることができるオンラインコース 【英・日】

### エリンと挑戦！ にほんごテスト



カードゲームやマンガ、クイズを通して日本語の初級の語彙や表現を楽しく学び、どのくらい覚えたかを確認できるアプリ 【英・インドネシア】

# コロナ前後：日本語教育のオンライン化

## 【学習】

集合

対面授業

宿題・予復習



## 【教材】

教科書、プリントetc

## 【教師】

コースデザイン、授業



## 【学習】

個人

自学自習

オンライン授業



## 【教材】

電子教材、PDF、動画etc

eラーニング（サイト、アプリ）

## 【教師】

電子教材作成、サポート  
オンライン授業

オンラインコースの制作、運用経験がヒントに！ 7

# JFにほんごeラーニング みなと



- 地理的・時間的制約のある世界中の人が誰でも利用できる
- 学習管理システム（LMS）を持つ日本語学習のためのプラットフォーム

199か国、28万人のユーザー  
みなとでできること

- オンラインコースで日本語が学べる
- コミュニティで仲間と交流できる
- サイトやアプリにアクセスできる

【表示言語：日、英、西、中、尼、泰、越】 <https://minato-jf.jp/>

# 日本語コース



Japanese Course

Community

JF J-Learning Site & Apps

About Minato

コースタイプ<sup>o</sup>

レベル

解説言語

学習カテゴリ

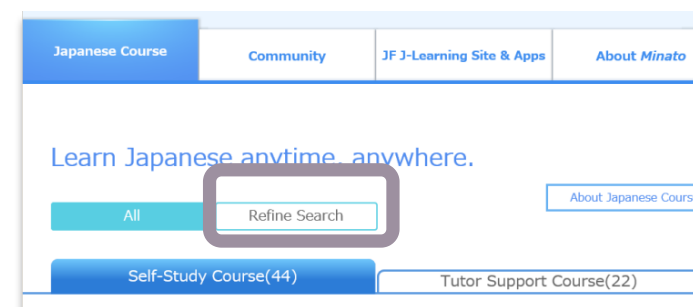
開講拠点

年間160コース

自習コース：自分のペースで自学自習

教師サポート付きコース：自学自習に課題添削、  
ライブレッスンなどの教師サポート付き

# 日本語コース



**MARUGOTO**  
Katsudoo & Rikai  
Self-Study Course **A1-1**

Applications Open  
A1 English

**Marugoto A1-1 (Katsudoo & Rikai) Self-Study Course**

Attendance 6 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Integrated  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**HIRAGANA**  
A1 Self-Study Course  
ひらがな

Applications Open  
A1 English

**Hiragana A1 Self-Study Course**

Attendance 6 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Kana (Japanese Alphabet)  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**KATAKANA**  
A1 Self-Study Course  
カタカナ

Applications Open  
A1 English

**Katakana A1 Self-Study Course**

Attendance 6 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Kana (Japanese Alphabet)  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**漢字**  
KANJI  
A1-1 Self-Study Course

Applications Open  
A1 English

**Kanji A1-1 Self-Study Course**

Attendance 6 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Kanji (Chinese Characters), Vocabulary  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**KC Yom Yom**  
A1 Self-Study Course

Applications Open  
A1 English

**KC Yom Yom A1 Self-Study Course**

Attendance 6 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Reading  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**Japanese in Anime & Manga**  
A1 (Greetings) Self-Study Course

Applications Open  
A1 English

**Japanese in Anime & Manga A1 (Greetings) Self-Study Course**

Attendance 3 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Culture/Society, Speaking  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**Japanese in Anime & Manga**  
A2 (School Expressions by Scene) Self-Study Course

Applications Open  
A2 English

**Japanese in Anime & Manga A2 (School Expressions by Scene) Self-Study Course**

Attendance 3 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Culture/Society, Reading, Speaking  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**KANSAI Dialect**  
A2 Self-Study Course

Applications Open  
A2 English

**Introduction to Kansai dialect A2 Self-Study Course**

Attendance 3 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Culture/Society, Speaking, Listening  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

**華道**  
Flower Arrangement  
A1 Self-Study Course

受付中  
A1 English

**華道A1自習コース**

受講期間 受講開始から3ヶ月  
学習カテゴリ 文化・社会、芸術  
開講拠点 KC (日本)  
受講料 無料

**書道**  
Calligraphy  
A1 Self-Study Course

受付中  
A1 English

**書道A1自習コース**

受講期間 受講開始から3ヶ月  
学習カテゴリ 文化・社会、芸術  
開講拠点 KC (日本)  
受講料 無料

**俳句**  
Haiku  
B1 Self-Study Course

Applications Open  
B1 Japanese

**俳句入門B1自習コース Introduction to Haiku B1 Self-Study Course**

Attendance 3 Months From Course Start  
Period Start  
Study Category Reading, Writing, Culture/Society  
Course Operator KC (Japan)  
Course Fee Free

Refine Search Conditions

**Level of Japanese**  
☐ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☐ B2 ☐ C1 ☐ C2

**Language of Explanation**  
☐ العربية ☐ English ☐ Deutsch  
☐ Magyar ☐ Bahasa Indonesia ☐ Italiano  
☐ 日本語 ☐ 中文 ☐ Português  
☐ Русский ☐ Español ☐ ไทย  
☐ Tiếng Việt ☐ Other-その他

**Study Category**  
☐ Integrated ☐ Reading  
☐ Writing ☐ Listening  
☐ Speaking ☐ Vocabulary  
☐ Grammar ☐ Culture/Society  
☐ Kana (Japanese Alphabet) ☐ Kanji (Chinese Characters)  
☐ Other

**Course Fee**  
☒ Unspecified ☐ Charged ☐ Free

Clear Refine Search

# 「みなと」の日本語コースの理念、アプローチ

## JF日本語教育スタンダード

<https://jfstandard.jp/>

- ・相互理解のための日本語

### 課題遂行能力＋異文化理解能力の向上

- ・レベル（CEFRに基づく）

**A1, A2, B1, B2, C1, C2**

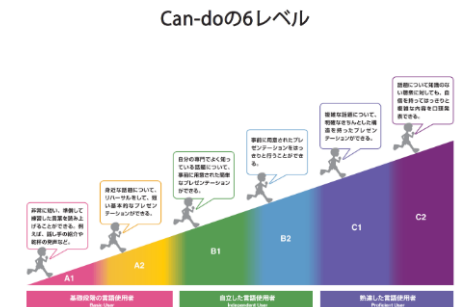
- ・教え方、学び方、評価のしかた

### 行動中心アプローチ（Action oriented Approach）

**Can-do**に基づき、日本語でできることを増やす

Can-do目標⇒学習活動⇒Can-doチェック

**ポートフォリオ**で自身の学習を管理





# KCの日本語コースの共通の特徴

- ・対面授業での実践経験をもとにコースを制作している
- ・Can-do目標、学習活動と教材、評価が一貫している
- ・自学自習を前提とした教材で主体的、インタラクティブに学べる

## KCの教師サポート付きコース事例（以下、教サポ）

- －まるごとA1（かつどう・りかい）
- －スピーチA2（観光）
- －アニメ・マンガA2（学校場面）

## 2. 「みなと」のコースデザインの流れ



# 「みなと」のコースデザインの流れ

- ①**分析** 学習者のニーズ・レディネス・学習特性の分析
- ②**設計** Can-do目標、学習ステップ、学習要素、評価の全体設計
- ③**開発** 学習要素（教材、動画、ライブレッスン、課題、テスト）の制作、スケジュール設定、連絡や交流の場づくりの具体化
- ④**実施** 学習進捗確認、連絡やサポート、ライブレッスン、フィードバックや評価
- ⑤**評価** 教材、運用の振り返り（学習者の反応、学習履歴、アンケート等）

⇒IDの教育システム設計の基本プロセス「ADDIEモデル」サイクルで、教育の「効果」「効率」「魅力」を向上

# オンラインの特徴を踏まえたコースデザインのし直し

「みなと」の日本語コースは、教サポコースも「**自学自習**」前提

## 対面授業

授業を中心として  
「何をどう教えるか」



## オンラインコース

学習者自身が管理し  
「何をどう学ぶか」

⇒オンラインの特徴を踏まえ、学習活動の流れ  
と学習要素、評価をデザインし直す

### 3. 分析：ニーズの確認、ペルソナ設定

# 分析：ニーズの確認

- **対象：**（教室で学ぶ機会がない）世界中の学習者

- **ニーズ調査、アンケート**

海外のオンライン学習ニーズ調査

「みなと」ユーザアンケート（年1回）

コース終了時アンケート（学習のふりかえり）

⇒学習ニーズの高いもの、経験を元に提供できるテーマ、コースタイプ、レベル、学習カテゴリの基本設定の参考に

- **「教サポコース」希望者**

教師のサポートや仲間と共に学習するスタイルを好み、期待

# 分析：ペルソナ設定

- 「**ペルソナ**」（＝コースで学ぶ対象者の**具体的な人物像**）の想定

- －学生、働いている？何歳？
- －どの国にいて、何語が母語？
- －どんな生活？何に興味がある？
- －デバイス、通信環境は？
- －日本語学習経験は？
- －日本語で何ができるようになりたい？
- －どんな学習スタイルを好む？



⇒「**教師側**」視点ではなく、「**学習者**」視点で学習をデザイン、制作する指針に。ペルソナに最適化することで、効果向上も。

## 4. 設計：Can-do目標、学習ステップと学習要素、 評価と修了要件

# 設計：Can-do目標の設定

- 「**Can-do目標**」（＝日本語で何がどのくらいできるかを「～できる」で記述した行動目標）の設定

「JF日本語教育スタンダード」に基づき、A1,A2などコースの対象レベルに合った具体的なCan-do目標を設定

⇒IDにおいても、学習者自身が学習管理するために、行動目標の設定が効果的とされている。

# 設計：学習ステップと学習要素の設定

- 「**学習ステップ**」（＝Can-do目標を達成するために必要な学習活動の流れ）の設定
- 「**学習要素**」（＝各学習活動を構成する要素）の設定

|         |                                                                    |
|---------|--------------------------------------------------------------------|
| 教材      | PPTや専用のテンプレートを使って、テキスト・音声・動画等を組み合わせたスライド教材を作成                      |
| テスト     | 選択問題、記述問題等を組み合わせたテストを作成                                            |
| 課題      | ・課題を出すことが可能<br>・テキスト、音声、動画等で課題を提出させたり、課題に対するフィードバックが可能             |
| ライブレッスン | ・時間、人数（複数人可）の設定や、レッスン後にはフィードバックが可能<br>・レッスンにはSkypeやZoom等の外部サービスを利用 |
| 動画      | 動画をアップすることが可能                                                      |
| アンケート   | 選択式、自由記述などを組み合わせたアンケートを作成                                          |
| まるごと    | 「まるごと日本語オンラインコース」サイトへの入り口となるリンクを作成                                 |



# 設計：学習ステップと学習要素の設定

## ● 自学自習（非同期）とライブレッスン（同期）向きの活動

### 自学自習向きの活動

- ・オリエンテーション
- ・導入、説明
- ・基本練習
- ・「聞く・話す・読む・書く」活動
- ・内容理解や達成確認のクイズ
- ・課題（作文等）、発表準備
- ・学習の振り返り、自己評価
- ・テスト

### ライブレッスン向きの活動

- ・質問
- ・個別化
- ・会話、ディスカッション、発表とQ&A
- ・グループワーク、共同作業
- ・体験交流活動
- ・オーラルテスト

**フィードバック  
やりとり・交流**

熊野（2021） p.97

⇒自学自習で実現が難しい「フィードバック」や「やりとり・交流」を  
ライブレッスンでやるべきこととしてデザインし直す

# 設計：学習ステップと学習要素の設定

- 「学習ステップ」と「学習要素」を連動して考え、組み合わせる。

## 対面授業

- ・ 授業の活動の流れ  
↓
- ・ 前後の補足要素  
予習  
復習や宿題・課題  
確認クイズ

## 「みなと」のコース

- ・ ライブレッスン「学習要素」の一つ
- ・ 「**学習ステップ**」の各学習活動を、どの「**学習要素**」で実現すれば効果的か、連動して組み合わせ、設定する。

# 設計：評価方法と修了要件の設定

- 「**Can-do目標**」の達成を評価する評価方法になっているか。  
いつ：どの「学習ステップ」で  
何で：教材や動画、クイズやテスト、課題、ライブレッスンへの参加や発表など、どの「学習要素」で  
誰が：自己評価か、教師か、ピア評価か  
どのように：Can-doチェック、ループリック、クイズやテストの点数、課題や発表のパフォーマンス評価とコメントなど
- 「自学自習」の学習プロセスも評価するため、各ステップ内にも達成確認、評価のプロセスを組み込み、**形成的評価**の比重を高くし、**修了要件**として明示する。

⇒IDにおいても、入口（目標）と出口（評価）の明示、  
形成的評価や自己評価が効果的だとされている。

5. コースデザイン事例：  
「まるごとA1（かつどう・りかい）」  
「スピーチA2（観光）」  
「アニメ・マンガA2（学校場面）」

# 対面授業での『まるごと』クラス

KCの外交官・公務員研修で、  
入門（A1）～初級（A2）レベルの  
総合日本語授業として行ってきた。



『まるごと 日本のことばと文化』  
<https://www.marugoto.org/>

レベル：入門（A1）～初級（A2）

目的：初級（A1-A2）レベルの総合的な  
日本語コミュニケーション能力を身につける。

# 対面授業での『まるごと』クラス



## 時間割例（2学期）

|                    | 月           | 火    | 水             | 木            | 金             |
|--------------------|-------------|------|---------------|--------------|---------------|
| 1<br>(9:00-9:50)   | かつどう        | かつどう | かつどう<br>チャレンジ | りかい<br>チャレンジ | 日本語<br>パラエティ  |
| 2<br>(10:00-10:50) | かつどう        | かつどう | かつどう<br>チャレンジ | りかい<br>チャレンジ | 多読            |
| 3<br>(11:00-11:50) | 漢字          | 漢字   | 専門語彙          | 社交の日本語       | 連絡会           |
| 4<br>(13:20-14:10) | りかい         | りかい  | 生活と文化         | スピーチ         | 文化社会講義/<br>見学 |
| 5<br>(14:20-15:10) | りかい         | りかい  | ニュース          | スピーチ         | 文化社会講義/<br>見学 |
| 6<br>(15:20-16:10) | ICT         | ICT  | なし            | なし           | 文化社会講義/<br>見学 |
|                    | 個別授業（25分/週） |      |               |              |               |

# まるごとオンラインコース

<https://www.marugoto-online.jp/info/jp/>



**MARUGOTO**  
Katsudoo & Rikai

Self-Study Course **A1-1**

Applications Open

**A1** English

Marugoto A1-1 (Katsudoo & Rikai) Self-Study Course

Attendance 6 Months From Course  
Period Start  
Study Category Integrated

Course Operator KC (Japan)

Course Fee Free

**MARUGOTO**  
Katsudoo & Rikai

Self-Study Course **A2-1**

Applications Open

**A2** English

Marugoto A2-1 (Katsudoo & Rikai) Self-Study Course

Attendance 6 Months From Course  
Period Start  
Study Category Integrated

Course Operator KC (Japan)

Course Fee Free

**MARUGOTO**  
Katsudoo & Rikai

Self-Study Course **A2-3**

受付中

**A2** English

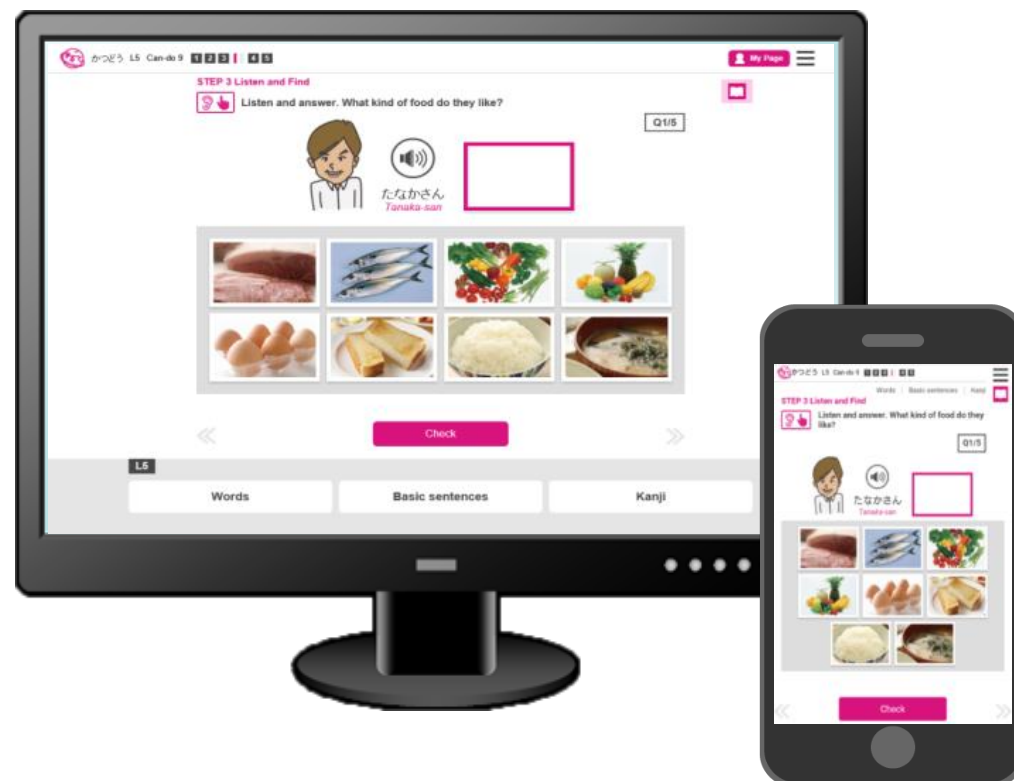
まるごとA2-3 (かつどう・りかい) 自習コース

受講期間 受講開始から6ヶ月

学習カテゴリ 総合

開講地点 KC (日本)

受講料 無料



**日本語**（聞く/話す/読む/書く）と**文化**を総合的に学べる  
インタラクティブなコース

学習サポートコンテンツ、マイページで自学自習を支援

# まるごとオンラインコース



## 自習コースの種類

| コースブック                                                                                                |        | 自習コース               | 解説言語                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 入門(A1)<br>           | 1～10課  | まるごとA1-1 (かつどう)     | <b>英語</b><br><b>スペイン語</b><br><b>インドネシア語</b><br><b>タイ語</b><br><b>中国語</b><br><b>ベトナム語</b><br><b>フランス語</b><br><b>ポルトガル語</b> |
|                                                                                                       |        | まるごとA1-1 (かつどう・りかい) |                                                                                                                          |
|                                                                                                       | 11～18課 | まるごとA1-2 (かつどう)     |                                                                                                                          |
|                                                                                                       |        | まるごとA1-2 (かつどう・りかい) |                                                                                                                          |
| 初級1(A2)<br>         | 1～10課  | まるごとA2-1 (かつどう・りかい) | <b>英語</b><br><b>スペイン語</b><br><b>インドネシア語</b>                                                                              |
|                                                                                                       | 11～18課 | まるごとA2-2 (かつどう・りかい) |                                                                                                                          |
| 初級2(A2)<br>        | 1～10課  | まるごとA2-3 (かつどう・りかい) | <b>英語</b><br><b>スペイン語</b>                                                                                                |
|                                                                                                       | 11～18課 | まるごとA2-4 (かつどう・りかい) |                                                                                                                          |
| 初中級<br>(A2/B1)<br> | 1～10課  | まるごとA2B1-1          | <b>英語</b><br><b>2022年5月開講予定</b>                                                                                          |
|                                                                                                       | 11～18課 | まるごとA2B1-2          | <b>英語</b><br><b>2022年8月開講予定</b>                                                                                          |



# 学習の流れ —「かつどう」



- ・日常場面での**コミュニケーション実践力**を身につける
- ・**Can-do**ごとに学習を進める



- ステップ1：目標を知る
- ステップ2：見る・聞く・言ってみる
- ステップ3：聞く・気づく
- ステップ4：使ってみる
- ステップ5：Can-doチェック
- ステップ6：生活と文化（偶数課のみ）

目標Can-doや場面を確認します。  
音声を聞いて、言う練習をします。  
会話などを聞いて、内容を理解し、表現に気づきます。  
動画を見て話す練習をしたり、日本語を書いたりします。  
目標Can-doができたか、自分でチェックします。  
日本の生活と文化について写真や動画を見て、理解します。

# 学習の流れ —「りかい」



- ・コミュニケーションのために必要な日本語のしくみについて学ぶ
- ・課ごとに学習を進める



ステップ1：きほんばん  
ステップ2：もじとことば  
ステップ3：かんじ  
ステップ4：かいわとばんぼう  
ステップ5：どっかい  
ステップ6：さくぶん  
ステップ7：クイズ（A1-1、A1-2のみ）  
ステップ8：にほんごチェック



学習することを確認します。  
文字とことばを練習します。  
トピックに関係することばの漢字を学びます。  
会話と文法を結びつけ、文の構造やルールを理解します。  
短い文章を読みます。  
短い文章を書きます。  
まとめのクイズをします。  
場面にあった日本語の使い方がわかったか、自分でチェックします。



# サポートコンテンツ

## 学習中に、いつでも参照、検索できる



全体の参照

日本語オンラインコース  
MARUGOTO JAPANESE ONLINE COURSE

まるごとA1-1(かつどう・りかい)自習コース  
(KC16\_MGRS\_A101\_MG01)

マイページ  
学習進捗  
ポートフォリオ

ローマ字 OFF ON

「まるごとのことば」検索

資料

- ・コース内容一覧
- かつどう PDF
- りかい PDF
- ・日本語インロダクション
- ・文法資料
- ・漢字リスト
- ・こいちょう PDF (80MB)

目次進捗表示

- ステップ 1 トピックを知る  
目標を知る
- ステップ 2 ことばを知る1  
ことばの練習1
- ステップ 3 聞く練習1  
会話例の確認
- ステップ 4 「話す」練習  
「話す」チャレンジ
- ステップ 5 Can-doチェック

ページ内の参照

学習ページ

かつどう L5 Can-do 9 1 2 3 4 5

Topic3 たべもの Food

Lesson 5 なにが すきですか  
What kind of food do you like?

Lesson 6 どこで たべますか  
Where are you going to have lunch today?

L5

ことば きほんぶん かんじ

各課の参照 (ことば)

Words

Basic sentences

Kanji

PDF

あさごはん (あ)

asa gohan

breakfast

あまり (あ)

amari

rarely/seldom

いただきます (い)

itadakimasu  
Thank you, I accept. (Said before  
starting to eat or drink, a polite way  
to say "morimassu".)

いつも (い)

itsumo

always

おちゃ/ちゃ (お)

ocha/cha

tea/Japanese tea

ぎゅう/る/ミルク (ぐ)

gyu/ru/miruku

milk

くだもの (く)

kudamono

fruit

けっこうです (け)

kekkou desu

No, thank you.

こーちゃ (こ)

ko-cha

English tea

ごちそうさま (ご)

gochisousama

That was delicious. (Said after  
eating and drinking)

ごはん/ライス (ご)

gohan/raisu

cooked rice

さかな (さ)

sakana

fish

すき(な) (す)

suki(na)

like/favorite

たべます (た)

tabemasu

to eat

たべもの (た)

tabemono

food

たまご (た)

tamago

egg

各課の参照 (きほんぶん)

にくが すきです。やさいは すきじゃないです。  
Niku ga suki desu. Yasai wa sukijanai desu.

あさごはんを たべます。  
Asa-gohan o tabemasu.

コーヒーを よく のみます。  
Koohii o yoku nomimasu.

各課の参照 (かんじ)

魚 肉 卵 水

魚 / さかな sakana

魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚 魚

魚を たべます。  
Sakana o tabemasu.

この 魚は やすいです。  
Kono sakana wa yasui desu.

アニメーション

イラスト



# マイページ（学習進捗）

学習の進み具合を確認できる

メッセージ

学習進捗

課題提出の有無

テスト

プレゼント



# マイページ（ポートフォリオ）

## 学習の成果を確認できる

マイページ ユーザーID : kami23 / コースID : KC18\_MGRS\_A101\_ES01

ポートフォリオ

▶ 学習進捗

課題

保存した課題

かつどう

りかい

2か 3か 4か 5か 6か 7か 8か 9か 10か

日本語・日本文化の体験記録

日本語や日本文化について体験したことや気づいたことなどを写真や文で記録しましょう。日本語で書いても、母語で書いてもいいです。

テストの結果

テストの結果を確認することができます

テストの結果を見る

テストの結果

かつどうチェック

りかいにほんごチェック

日本語・日本文化の体験記録



|             |   |   |   |  |
|-------------|---|---|---|--|
| す           | ★ | ★ | ★ |  |
| ます          | ★ | ★ | ★ |  |
| とばを はなします   | ★ | ★ | ★ |  |
| かきます        | ★ | ★ | ★ |  |
| かんたんに はなします | ★ | ★ | ★ |  |
| す           | ★ | ★ | ★ |  |
| かんたんに はなします | ★ | ★ | ★ |  |

Can-doチェックの記録

# まるとA1-1（かつどう・りかい）



## ●コース制作の目的

- 日本語と文化を総合的に学びたい人に、自学自習に加え、**教師のサポートを受けながら、仲間といっしょに学習する機会**を提供し、日本語コミュニケーション能力の向上につなげる。

# まるごとA1-1（かつどう・りかい）



## ●コース概要

コースタイプ：教師サポート付きコース

日本語レベル：A1

学習カテゴリ：総合、話す

解説言語：英語

学習時間の目安：54時間

教材、課題（1課かつどう・りかい4時間×10）、テスト＝48時間

ライブレッスン（45分）×6＋オーラルテスト（15分）＝5時間

使用教材：

まるごとオンラインコース A1-1（かつどう・りかい）

『まるごと』（入門A1）のL1-10（トピック1-5）相当





# 目標Can-do :

## トピック1 にほんご

だい1か こんにちは

1. あいさつを します
2. にほんごを よみます

だい2か もういちど おねがいします

3. きょうしつのことばを はなします
4. なまえとくにを かきます

## トピック2 わたし

だい3か どうぞ よろしく

5. じぶんのことを かんたんに はなします
6. めいしを よみます

だい4か かぞくは 3にんです

7. かぞくのことを かんたんに はなします
8. かぞくのしゃしんを みて はなします

## トピック3 たべもの

だい5か なにか すきですか

9. すきな たべものが なにか はなします
10. ほかのひとに のみものを すすすめます
11. あさごはんの しゅうかんについて はなします

だい6か どこで たべますか

12. すきな りょうりを いいます
13. ひるごはんを どこで いっしょに たべるかと  
ともだちと はなします
14. メニューを よみます
15. ハンバーガーの みせで かんたんな ちゅうもん  
を します

## トピック4 いえ

だい7か へやが 3つ あります

16. どんな いえに すんでいるか いいます
17. いえに なにか あるか いいます
18. ともだちを いえに しょうたいする Eメール  
を かきます

だい8か いい へやですね

19. ものを へやの どこに おくか ききます/  
いいます
20. いえを ほうもんします/いえに ともだち  
を むかえます
21. いえの なかを あんないします
22. そとで なまえや じゅうしょを よみます

## トピック5 せいかつ

だい9か なんじに おきますか

23. なにかを する じかんを いいます
24. いちにちの せいかつを はなします

だい10か いつが いいですか

25. いっしゅうかんの スケジュールについて  
はなします
26. パーティーを いつに するか はなします
27. バースデーカードを かきます



# まるごとA1-1（かつどう・りかい）



## 教師サポート：

課題の添削（かつどう 2回、りかい 10回）

ライブレッスン（ガイダンス1回、各トピック×5回、オーラルテスト1回）

## 修了要件：

学習の進捗 50%

課題の提出 10%

テスト 10%

ライブレッスン 20%

オーラルテスト 10%

教材（コースサイトでの学習終了）

全て必須要件、全体で60%以上で修了

# まるごとコースの 工夫ポイント



(1)教材（コースサイト）で、『まるごと』のかつどう、りかいの  
一連の学習の流れを自学自習で実現

かつどう：動画（Can-do場面の理解、遂行練習）

りかい：ルールの発見⇒説明（解説言語）⇒定着練習

自学自習支援：サポートコンテンツ、マイページ

武田ほか（2018,2019）

(2)「課題の添削」「ライブレッスン」でフィードバック、個別化  
やりとり・交流を実現

千葉ほか（2018）

# 対面授業でのスピーチクラス

KCのさまざまな研修

（対象者：外交官・公務員、  
大学生・大学院生、研究者）で、  
日本語授業の一部として行ってきた。



『初級からの日本語スピーチ』

レベル：A2～

目的：

- ・初級段階でもまとまった話をすることで達成感を得る
- ・スピーチを行うことで、トピックに関する語彙や表現を学び、口頭コミュニケーション能力を伸ばす

# 対面授業のスピーチクラスの流れ

(外交官・公務員研修の例)

|   | 学習内容       |                                                | 形式  |
|---|------------|------------------------------------------------|-----|
| 1 | オリエンテーション  | 目的、スケジュール、いいスピーチとは                             | クラス |
| 2 | テキストに沿った学習 | スピーチフロー、<br>Q&Aで各自の内容づくり（表現確認）<br>モデルスピーチでイメージ | クラス |
| 3 | 原稿の準備      | 各自原稿作成⇒教師添削                                    | 宿題  |
| 4 | 原稿の最終化     | 意図確認、リライト⇒教師モデル音声                              | 個別  |
| 5 | 練習、資料準備    | スピーチ練習、PPT資料準備                                 | 宿題  |
| 6 | スピーチ発表     | スピーチ発表、質疑応答、ピアコメント                             | クラス |
| 7 | 自己評価       | ビデオで自己評価⇒教師評価コメント                              | 宿題  |

# スピーチ A2（観光）



## ●コース制作の目的

➤ 日本語 A 2レベルの人で、

「話すことに自信がない人」

「話す機会がそもそもない人」

「ある程度まとまった話をしたいと望む人」

などを対象とし、

**スピーチ学習を通して、日本語で話す機会を  
提供し、話すことに自信をもてるように。**

# スピーチ A2（観光）



## ●コース概要

コースタイプ : 教師サポート付きコース

日本語レベル : A2

学習カテゴリ : 話す、書く、聞く

解説言語 : 英語

学習時間の目安 : 9時間

# スピーチ A2（観光）



## 目標Can-do：

1. 談話構成が示されれば、自国の観光地について短い簡単なスピーチ原稿を書くことができる。
2. ときどきメモを見ることができれば、練習済みの短い簡単なスピーチをすることができる。
3. ときどき繰り返しや説明を求めることができれば、発表後の簡単な質問に答えることができる。
4. 視覚的な補助があれば、短い簡単なスピーチを聞いておおよその内容が理解でき、事実確認等の簡単な質問ができる。

# スピーチ A2（観光）



## 学習ステップ、学習要素、修了要件：

| ステップ | タイトル              | 学習要素      | 修了要件 |
|------|-------------------|-----------|------|
| 1    | コースオリエンテーション      | 動画（PPT動画） | 5%   |
| 2    | 【ライブレッスン】話すことを考える | ライブレッスン   | 20%  |
| 3    | スピーチ原稿を書く         | 課題        | 20%  |
| 4    | スピーチの準備をする        | 教材        | 10%  |
| 5    | 【ライブレッスン】スピーチ発表会  | ライブレッスン   | 30%  |
| 6    | 自己評価 ビデオ（各自）      | 課題 教材 動画  | 10%  |
| 7    | 学習のふりかえり          | アンケート     | 5%   |



## オンラインコース

## 対面授業

|   | タイトル                  | 学習要素      | 学習内容           | 形式     |
|---|-----------------------|-----------|----------------|--------|
| 1 | コースオリエンテーション          | 動画（PPT動画） | コースオリエンテーション   | クラス    |
| 2 | 【ライブレッスン】<br>話すことを考える | ライブレッスン   | テキストの内容に沿った学習  | クラス    |
| 3 | スピーチ原稿を書く             | 課題        | 原稿の準備          | 宿題     |
| 4 | スピーチの準備をする            | 教材        | 原稿の最終化         | 個別     |
| 5 | 【ライブレッスン】<br>スピーチ発表会  | ライブレッスン   | 練習、資料準備        | 宿題     |
| 6 | 自己評価<br>ビデオ（●●さん）     | 課題 教材 動画  | スピーチ発表         | クラス    |
| 7 | 学習のふりかえり              | アンケート     | 自己評価と教師フィードバック | 宿題、手渡し |

オリエンテーション⇒学習活動⇒評価の流れは共通<sup>46</sup>

# 工夫ポイント(1)

|   | タイトル                  | 学習要素                    | 学習内容           | 形式     |
|---|-----------------------|-------------------------|----------------|--------|
| 1 | コースオリエンテーション          | 動画（PPT動画）               | コースオリエンテーション   | クラス    |
| 2 | 【ライブレッスン】<br>話すことを考える | ライブレッスン                 | テキストの内容に沿った学習  | クラス    |
| 3 | スピーチ原稿を書く             | 課題                      | 原稿の準備          | 宿題     |
| 4 | スピーチの準備をする            | 教材（レッスンテンプレート）          | 原稿の最終化         | 個別     |
| 5 | 【ライブレッスン】<br>スピーチ発表会  | ライブレッスン                 | 練習、視覚資料の準備     | 宿題     |
| 6 | 自己評価<br>ビデオ（●●さん）     | 課題<br>教材（レッスンテンプレート 動画） | スピーチ発表         | クラス    |
| 7 | 学習のふりかえり              | アンケート                   | 自己評価と教師フィードバック | 宿題、手渡し |

# 工夫ポイント(1) コースオリエンテーション

コース概要のみで説明



動画でステップごとに説明



“文字だけ”では伝わりにくい情報量や活動内容

👉 コースオリエンテーションを動画で実施

# 工夫ポイント(2)

|   | タイトル                  | 学習要素                    | 学習内容           | 形式     |
|---|-----------------------|-------------------------|----------------|--------|
| 1 | コースオリエンテーション          | 動画（PPT動画）               | コースオリエンテーション   | クラス    |
| 2 | 【ライブレッスン】<br>話すことを考える | ライブレッスン                 | テキストの内容に沿った学習  | クラス    |
| 3 | スピーチ原稿を書く             | 課題                      | 原稿の準備          | 宿題     |
| 4 | スピーチの準備をする            | 教材（レッスンテンプレート）          | 原稿の最終化         | 個別     |
| 5 | 【ライブレッスン】<br>スピーチ発表会  | ライブレッスン                 | 練習、視覚資料の準備     | 宿題     |
| 6 | 自己評価<br>ビデオ（●●さん）     | 課題<br>教材（レッスンテンプレート 動画） | スピーチ発表         | クラス    |
| 7 | 学習のふりかえり              | アンケート                   | 自己評価と教師フィードバック | 宿題、手渡し |

# 工夫ポイント(2) ライブレッスン



対面授業では

- ①QAをしながら、話す内容を決める
- ②スピーチ発表会で、質問に  
答えたり、スピーチに質問したりする

“教師と学習者”  
“学習者同士”の  
やりとり、フィードバック

👉「やりとり」「フィードバック」を実現するため、  
**「ライブレッスン」**を2回実施

# 工夫ポイント(3)

|   | タイトル                  | 学習要素                    | 学習内容           | 形式     |
|---|-----------------------|-------------------------|----------------|--------|
| 1 | コースオリエンテーション          | 動画（PPT動画）               | コースオリエンテーション   | クラス    |
| 2 | 【ライブレッスン】<br>話すことを考える | ライブレッスン                 | テキストの内容に沿った学習  | クラス    |
| 3 | スピーチ原稿を書く             | 課題                      | 原稿の準備          | 宿題     |
| 4 | スピーチの準備をする            | 教材（レッスンテンプレート）          | 原稿の最終化         | 個別     |
| 5 | 【ライブレッスン】<br>スピーチ発表会  | ライブレッスン                 | 練習、視覚資料の準備     | 宿題     |
| 6 | 自己評価<br>ビデオ（●●さん）     | 課題<br>教材（レッスンテンプレート 動画） | スピーチ発表         | クラス    |
| 7 | 学習のふりかえり              | アンケート                   | 自己評価と教師フィードバック | 宿題、手渡し |

# 工夫ポイント(3) 自己評価

自己評価



Speech presentation evaluation

| Evaluation points   |                                                         | Assessment |
|---------------------|---------------------------------------------------------|------------|
| Contents            | Discourse structure                                     |            |
|                     | Contents of the speech                                  | ○          |
| Presentation Skills | Pronunciation                                           |            |
|                     | Fluency (clear voice, speed, pause)                     | ○          |
|                     | Attitude in the presentation (body action, eye contact) | ○          |
|                     | Skill in using visual aids (handout, powerpoint)        | ○          |
| Q & A               | Interaction with the audience                           | △          |
| Comments            |                                                         |            |

フィードバック記入  
→返却

対面授業では

- ①ビデオを見て、振り返りを行う（シートに記入、提出）
- ②自己評価シートに教師からのフィードバックを記入、返却

👉 **自己評価の一連の流れを、「課題＋動画」で再現**

# スピーチコースの 工夫ポイント



- (1)コースオリエンテーションを「動画」で
- (2)「やりとり」「フィードバック」を「ライブレッスン」で
- (3)「自己評価」を「課題＋動画」で



# 対面授業での アニメ・マンガの日本語（学校場面）

海外で日本語を学ぶ  
大学生や高校生を対象とした  
2～6週間の訪日研修において、  
授業として実施。



「アニメ・マンガの日本語」Web  
サイト (<https://anime-manga.jp>)

## ■ 概要

レベル : 初級後半～中級

対象者 : アニメ・マンガに興味がある人

目標Can-do : 1. 好きなアニメ・マンガの登場人物やストーリーを説明できる。  
2. アニメ・マンガの日本語のキャラクターによる表現の違いを知る。  
3. 日本語でマンガを読んで、キャラクター表現がわかり、  
キャラクターらしくセリフを言うことができる。

# 対面授業での アニメ・マンガの日本語（学校場面）

## ■ 授業の流れ

|   | 内容                                                    |
|---|-------------------------------------------------------|
| 1 | ①好きなアニメ・マンガについて話す<br>②キャラクターの表現の違いを知る<br>③キャラクター表現で話す |
| 2 | ④マンガを読む<br>⑤キャラを選んで、グループで練習<br>⑥発表                    |



# アニメ・マンガの日本語A2 (学校場面) 教師サポート付きコース

## ●コース制作の目的

会話やストーリー  
の中で学びたい



マンガで使われている  
もっと色々な表現を  
学びたい



- 「アニメ・マンガの日本語A1 (あいさつ)」コースに続く学びの場の提供する。

# アニメ・マンガの日本語A2 (学校場面) 教師サポート付きコース

## ●コース概要

コースタイプ : 教師サポート付きコース

日本語レベル : A2

学習カテゴリ : 文化・社会、話す、読む

解説言語 : 英語

学習時間の目安 : 3時間

目標Can-do :

- ① アニメ・マンガの日本語のキャラクターによる表現の違いを知る
- ② 簡単なセリフで書かれていれば、マンガを読んで、  
おおよその内容を理解することができる
- ③ 場面を理解し、キャラクターらしくセリフを言うことができる

# アニメ・マンガの日本語A2 (学校場面) 教師サポート付きコース

## 学習ステップ、学習要素、修了要件

|   | タイトル                        | 学習要素            | 修了要件 |
|---|-----------------------------|-----------------|------|
| 1 | 表現を学ぶ<br>表現確認クイズ            | 動画<br>テスト       | 30%  |
| 2 | マンガを読む<br>内容確認クイズ<br>語彙リスト  | 教材<br>テスト<br>教材 | 30%  |
| 3 | なりきってセリフを言う<br>男の子／女の子になりきる | 課題<br>動画        | 30%  |
| 4 | みんなの声を聞く<br>学習のふりかえり        | 教材<br>アンケート     | 10%  |

# 工夫ポイント（１）

## 「マンガを読む」を「教材（サイト）＋テスト」で実現

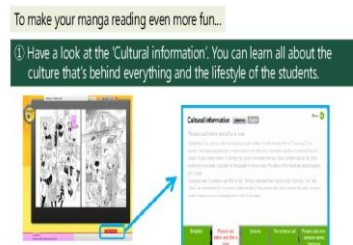
### 対面



- ・マンガを配布
- ・個人やペアで、マンガを読む
- ・内容確認の質問で、理解を確認

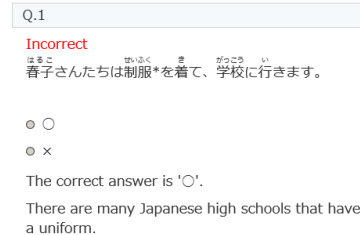
### 「みなと」

#### マンガを読む （教材PPT）



教材でサイトへ誘導  
（サイトの見方を解説）

#### 内容確認クイズ （テスト）



テストで理解を確認

#### 語彙リスト （教材PDF）

##### Vocabulary List

チャリ通 (p.2)

to go to school by bicycle

Bicycles are also sometimes called 'チャリ'.

'チャリ通' is a shortened form of 'チャリ通学'.



語彙リストで、学校場面の  
語彙を補足説明



# 工夫ポイント（２）

## 「発表」を「課題＋グループ」で実現



### 対面



- ・キャラを選んで、グループで練習
- ・クラスで発表

### 「みなと」

なりきってセリフを言う  
（課題）＋（動画）



- ・動画を見ながら声を録音して、提出
- ・教師からコメントの送付

みんなの声を聞く  
（教材PPT）



- ・提出された音声を教材で共有
- ・グループへ誘導

グループ



- ・ユーザー同士でコメント

武田ほか(2017)

## 6. 開発： 自学自習（非同期）用教材



対面授業で使っている教材を、LMSにアップロードすれば、  
オンラインコース教材のできあがり・・・

教師が授業で使う  
PPT



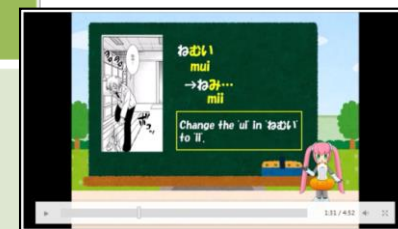
学習者が  
自習する教材



というわけにはいかない!

# 例：アニメ・マンガA2(学校場面) 教師サポート付きコース

|   | タイトル                        | 学習要素            |
|---|-----------------------------|-----------------|
| 1 | 表現を学ぶ<br>表現確認クイズ            | 動画<br>テスト       |
| 2 | マンガを読む<br>内容確認クイズ<br>語彙リスト  | 教材<br>テスト<br>教材 |
| 3 | なりきってセリフを言う<br>男の子／女の子になりきる | 課題<br>動画        |
| 4 | みんなの声を聞く<br>学習のふりかえり        | 教材<br>アンケート     |



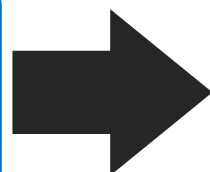


# ちょっと思い出してみよう

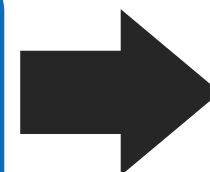
## 対面授業は、どんな流れで進めている？



導入



展開



まとめ

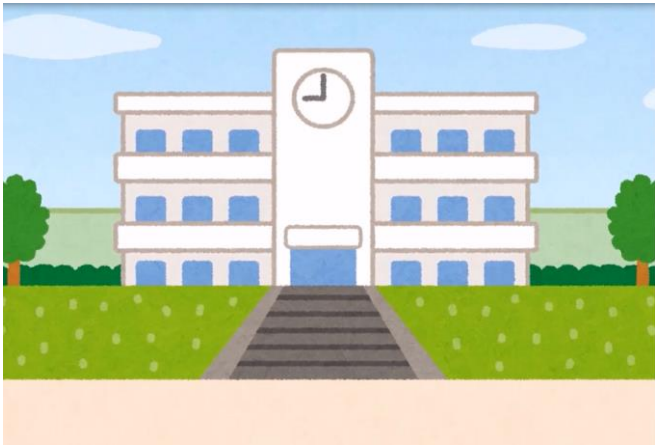
# 教材内工夫 ポイント1

**授業の流れ**を教材の構成に落とし込む！

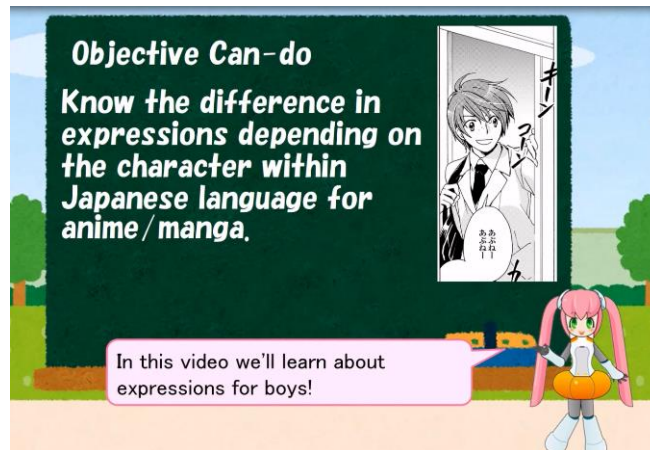


# 導入

## 注意の喚起



## 学習目標の提示



## 場面の意識づけ



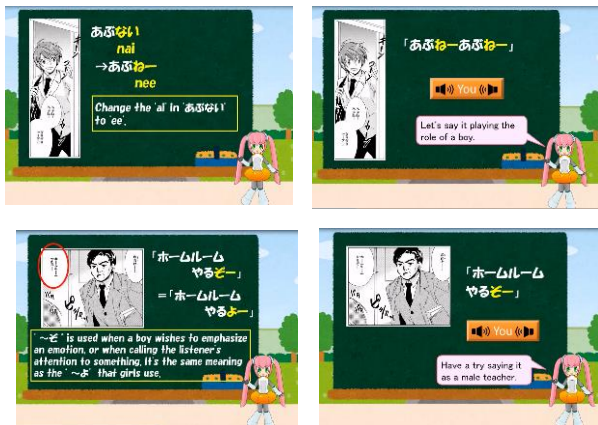
学校イラスト、効果音

目標Can-do

学校場面マンガ

# 展開

## スモールステップ構成

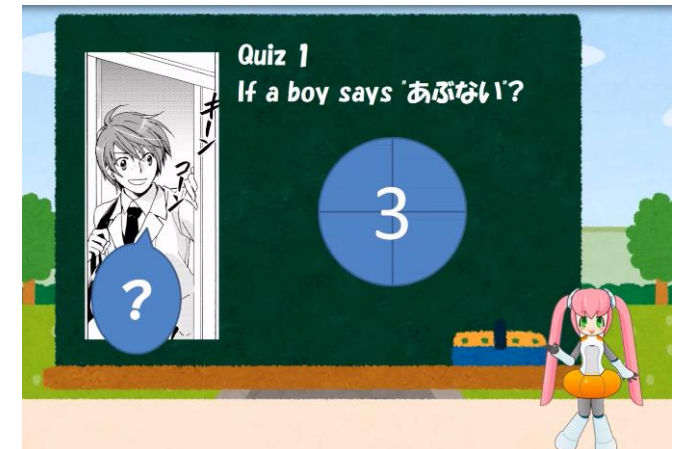


導入⇒確認  
気づき

## 参加できる場の作成 練習にバリエーション



Youで発話を促す  
主体的に



次は3秒以内  
飽きずに



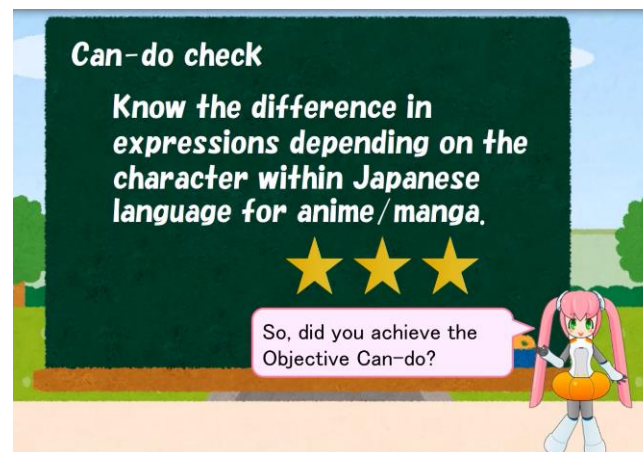
# まとめ

## 内容のまとめ



## 学習したポイント

## Can-doチェック



## 目標達成自己評価

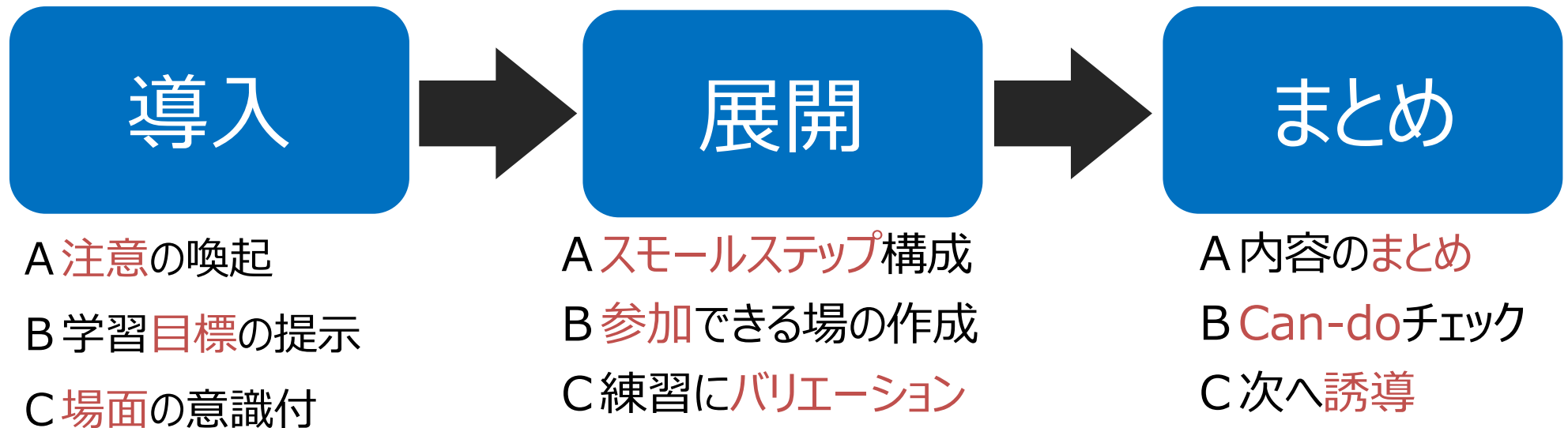
## 次へ誘導



## 次の学習予告

# 教材内工夫 ポイント1

授業の流れを教材の構成に落とし込む！







ちょっと思い出してみよう

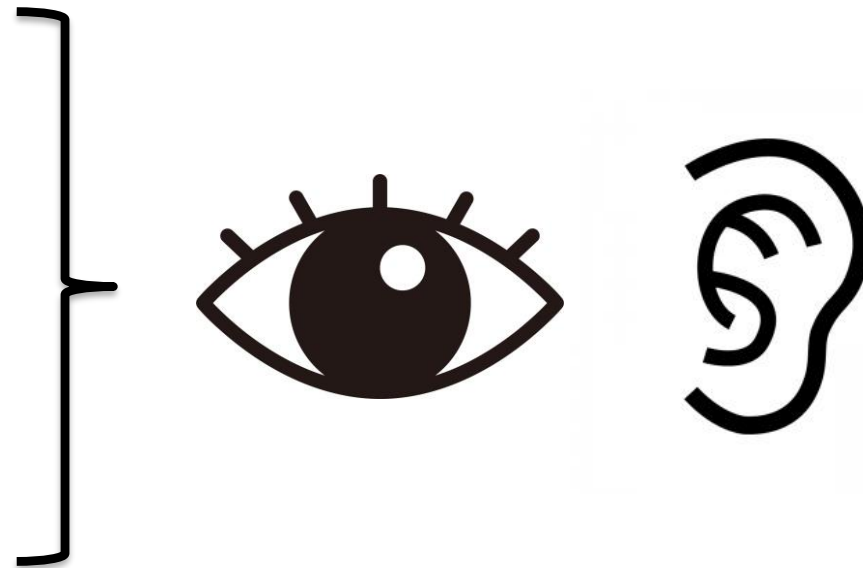
**対面授業で、教師はどんな役割をしていますか？**



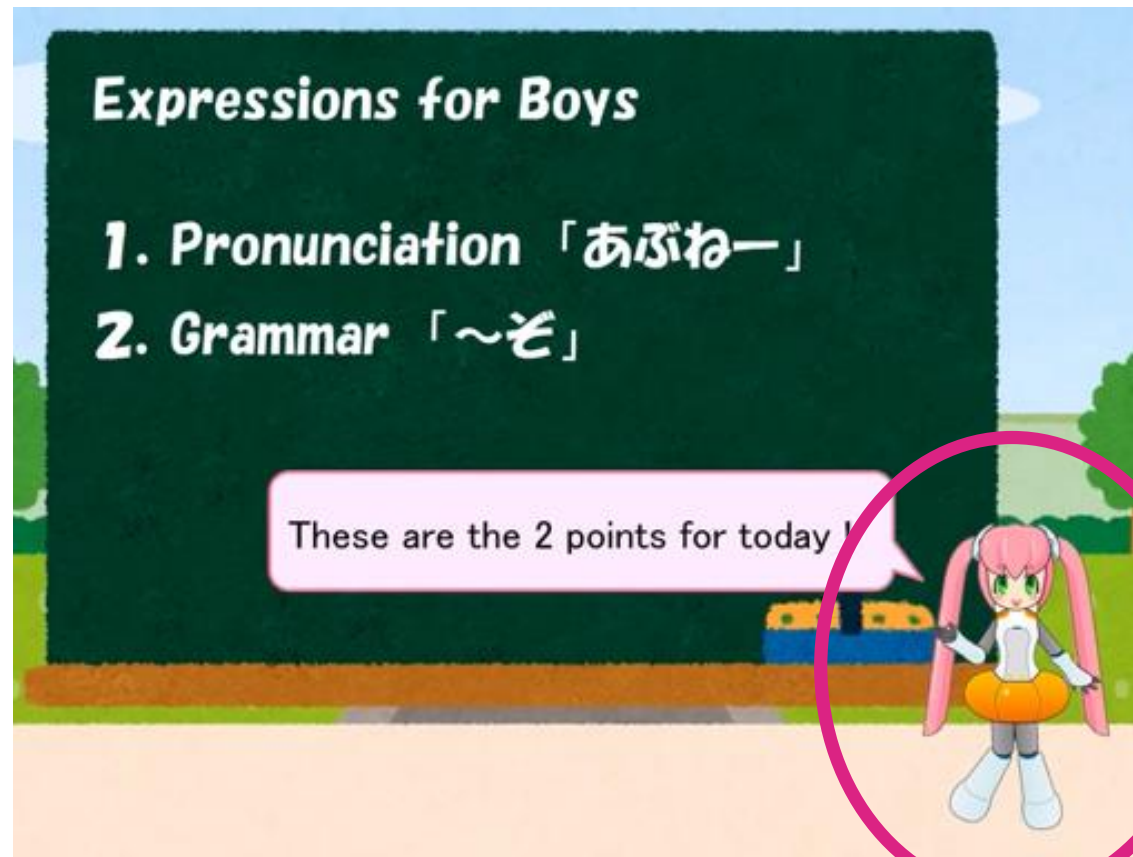
## 教材内工夫 ポイント2

**教室での教師の役割**を教材内に明示する！

A 存在する  
B 情報の提示  
C 指示  
D 進行管理

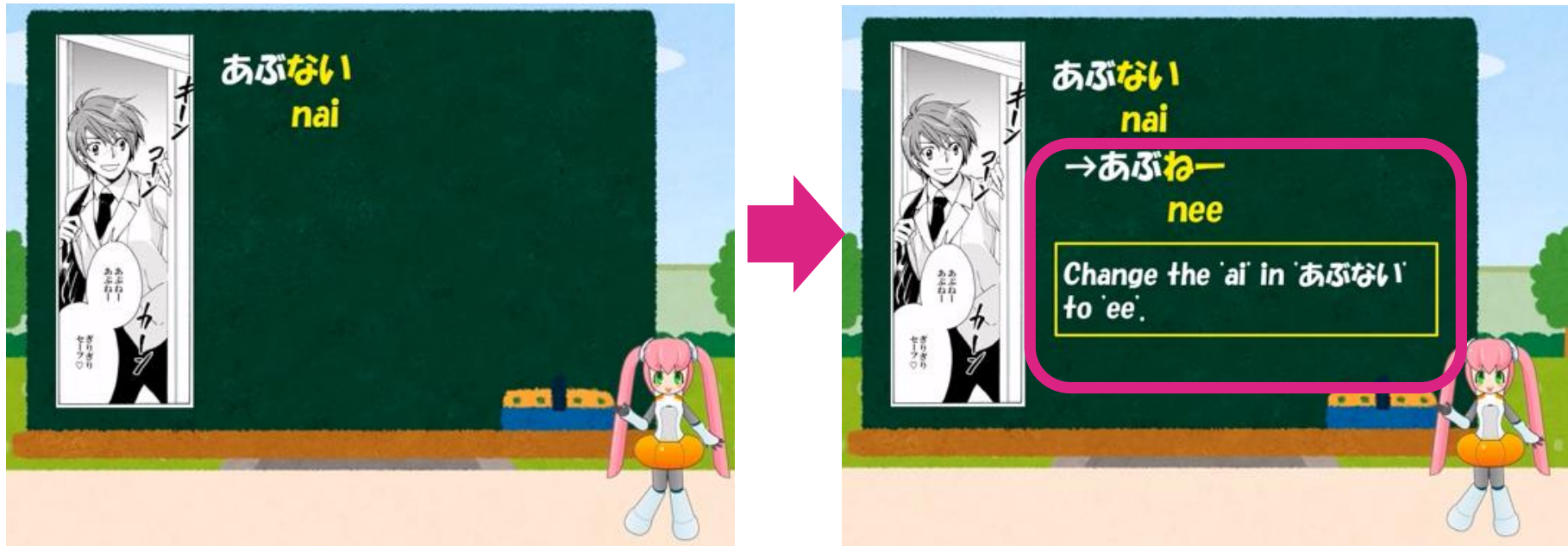


# 存在する



ナビゲーションキャラクターが教師代わり  
教師、キャラの存在による動機づけの効果も

# 情報の提示



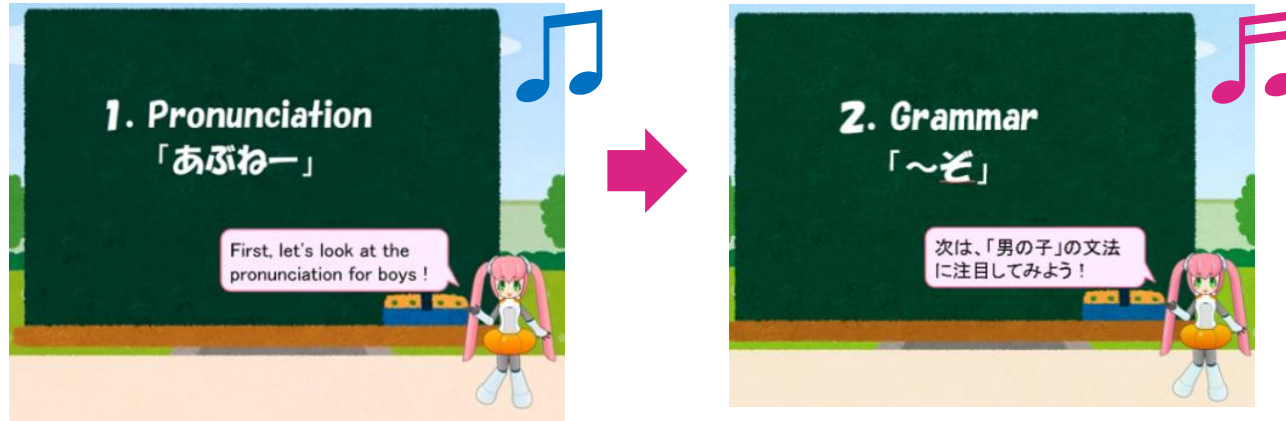
見やすい位置に時間差で表示  
形に注目⇒気づき⇒説明を実現  
視線の動き、注意をひく色や大きさ  
提示順序、タイミング効果

# 指示



教師の活動指示を吹き出しで  
役割ごとに位置や表示を固定化

# 進行管理



学習の区切りでBGMを変え、区切りを意識

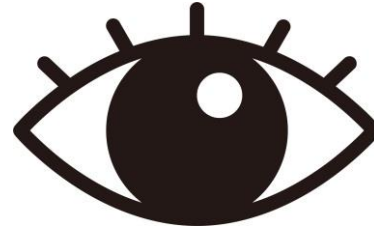


タイマーや解答表示のタイミングに効果音  
学習の進行にメリハリ

# 教材内工夫 ポイント2

**教室での教師の役割**を教材内に明示する！

A 存在する  
B 情報の提示  
C 指示  
D 進行管理



位置、色、大きさ  
速さ、量



BGM  
効果音

わかりやすい

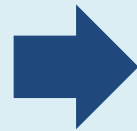
イライラしない



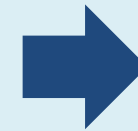
# 自学自習用教材のポイント

## 1. 授業の流れを教材の構成に落とし込む

導入



展開



まとめ

A 注意の獲得  
B 学習目標の提示  
C 場面の意識付

A スモールステップ構成  
B 参加できる場の作成  
C 練習にバリエーション

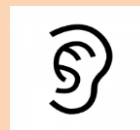
A 内容のまとめ  
B Can-doチェック  
C 次へ誘導

## 2. 教室での教師の役割を教材内に明示する

A 存在する  
B 情報の提示  
C 指示  
D 進行管理



位置、色  
大きさ  
速さ、量



BGM  
効果音

わかりやすい

イライラしない



## インストラクショナル・デザイン（ID）理論から

### ーガニエの9教授事象 ガニエほか（2007）

#### 導入

1. 学習者の注意を喚起する
2. 学習目標を知らせる
3. 前提条件を確認する

#### 展開

4. 新しい事項を提示する
5. 学習の指針を与える
6. 練習の機会を設ける
7. フィードバックをする

#### まとめ

8. 学習の成果を評価する
9. 保持と移転を高める

### ーケラーのARCSモデル J.M.ケラー(2010) 鈴木（2002）

**A**ttention : 注意

面白そうだなあ

**R**elevance : 関連性

やりがいがありそうだなあ

**C**onfidence : 自信

やればできそうだなあ

**S**atisfaction : 満足感

やってよかったなあ

### ーゲーム理論、ゲーミフィケーション ライゲルースほか(2010)

没入感、アバター、選択性、競争、挑戦、ご褒美など

## 遠隔教育やMOOC、認知心理、学習分析から

### –教師や仲間の存在、心理的距離

ナビゲーションキャラクターやアバターの活用

### –オンライン教材は視覚、聴覚に訴える

スライドや動画の構成、BGM、効果音

### –複数メディアの認知負荷、モダリティ効果

目線やタイミングを意識した情報提示やUIデザイン

### –学習集中時間、マイクロラーニング

教材は短時間、小単位で段階的に

⇒教育工学の知見も活かすことで「自学自習」の学びを支援する効果的な教材に

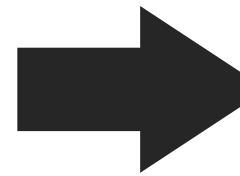
## 7. 開発： ライブレッスン（同期）用教材、教案

対面授業で使っている教材をライブレッスン用教材に？  
自学自習用教材をライブレッスン用教材に？

教師が対面授業で  
使う教材



学習者が  
自習自習する教材





# ライブレッスン用教材（学習活動）

## 例：スピーチA2（観光） Step 2「話すことを考える」

**eみなの質問**

**Questions**

① 1. あなたの 国で 一番 おすすめの 観光地は どこ ですか。

② 2. そこは 首都(capital)から どうやって 行きますか。

③ 3. 気候は どうですか。いつが 一番 いいですか。

**Useful Expressions**

④ Sightseeing spotは capitalのdirection, distanceキロに あります。  
(sightseeing spot is (distance) to (direction) from (capital)).

北(north)／南(south)／西(west)／東(east)  
北西(northwest)／北東(northeast)／南西(southwest)／南東(southeast)

・沖縄は 東京の 南西、1500キロ(kilometers)に あります。

**Example paragraph**

日本で 一番 おすすめの 観光地は、沖縄です。  
沖縄は 東京の 南、1500キロ、飛行機で 2時間です。  
気候は 亜熱帯気候で、1年中 暖かいです。特に、6月の 初めは 毎日 天気が よくて、  
とても 気持ちいいです。

copyright (c) The Japan Foundation. All Rights Reserved.

**eみなの参考語彙**

**Reference Vocabulary**

| 地理       | ちり                            | geography            |
|----------|-------------------------------|----------------------|
| 市内       | しない                           | in the city          |
| 中心       | ちゅうしん                         | center               |
|          | Ex. シドニー市内の 中心に オペラハウスが あります。 |                      |
| 郊外       | こうがい                          | suburbs              |
|          | Ex. ピラミッドは カイロ市の 郊外に あります。    |                      |
| 気候       | きこう                           | climate              |
| 亜熱帯      | あねったい                         | subtropics           |
| 蒸し暑いです   | むしあついです                       | hot and humid        |
| すずしいです   | すずしいです                        | cool                 |
| 穏やかです    | おだやかです                        | mild                 |
|          | Ex. 沖縄は、1年中 穏やかな 気候です。        |                      |
| 気持ちがいいです | きもちがいいです                      | comfortable          |
| 時間       | じかん                           | time, period         |
| ～月の 始め   | ～がつの はじめ                      | beginning of (month) |
| ～月の 半ば   | ～がつの なかば                      | middle of (month)    |
| ～月の 終わり  | ～がつの おわり                      | end of (month)       |
| 季節       | きせつ                           | season               |
| 春        | はる                            | spring               |
| 夏        | なつ                            | summer               |
| 秋        | あき                            | autumn               |
| 冬        | ふゆ                            | winter               |
| 雨季       | うき                            | rainy season         |
| 乾季       | かんき                           | dry season           |

copyright (c) The Japan Foundation. All Rights Reserved.



同期ですべき「やりとり、フィードバック、個別化」に絞り、  
教師は授業力を生かして個々の学びを支援

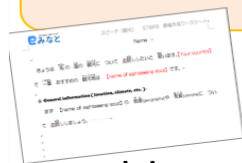
# ライブレッスン用教材（活動指示）

例：スピーチA2（観光） Step 2「話すことを考える」

## STEP3 Write Speech Draft

Write your speech draft and submit it as assignment

Your tutor will correct your speech draft and give feedback.



worksheet

Speech draft submission deadline:  
**16<sup>th</sup> March** 23:59 (Japanese time)

Feedback from the tutor:  
**19<sup>th</sup> March** 23:59 (Japanese time)

Write your speech draft based on what you talked in the live lesson!



## Speech evaluation Points

### Contents

- Attract audience's interest
- Communicate information easy to understand using learned speech structure, expressions and vocabulary.

### Performance

- Do not read, but talk.
- Talk in a appropriate voice volume, speed, pause.
- Appropriate attitude (smile, eye contact, etc.)

### Q&A

- Answer the questions from the audience.

Keep these points in mind to prepare for your speech, too!



STEP5 Peer comment  
STEP6 Self-Evaluation  
Teacher-Evaluation

活動の流れの確認や締め切り、評価基準などの確認

# ライブレッスン用教材（発表・質疑応答）

例：スピーチA2（観光） Step5「スピーチ発表会」



スピーチ発表中は教材を使わず画面越しにコミュニケーション



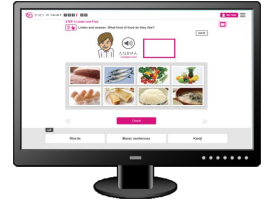
# ライブレッスン用教材（自学自習の成果確認）



例：まるごとA1-1（かつどう・りかい）

千葉ほか（2018）

- ・ライブレッスン（各トピック、2課分） 2週に1回 45分  
「トピック3 たべもの」



Can-do活動2 私の朝ごはんを写真を見せながら紹介する。

## Presentation Example



これは わたしの あさごはんです。  
Kore wa watashi no asagohan desu.

これは ごはんです。  
Kore wa gohan desu.

これは さかなです。  
Kore wa sakana desu.

+1 comment!

わたしは いつも みそしるを のみます。  
Watashi wa itsumo misoshiru o nomimasu.

## Question Example

いつも あさごはんを たべますか。  
なにを よく たべますか。  
〇〇が すきですか。



自学自習教材と同じ学習プロセスを繰り返さない、習慣づけ  
フィードバック、やりとり・交流の場に



# ライブレッスン用教案

## 例：スピーチA2（観光） Step 2「話すことを考える」

| コース:スピーチ A2(観光)教師サポート付きコース                                                |                                                                                                                                                         | 時間:60 分                          |                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------|
| STEP2【ライブレッスン】<br>スピーチのテーマに関する質疑応答活動等を行うことを通して、構成、内容や表現を学び、スピーチで話すことを考える。 |                                                                                                                                                         | 学習者:6~7 名                        |                                                        |
| 学習内容:<br>① スピーチ構成の意識化<br>② スピーチのテーマに関する質疑応答<br>③ モデルスピーチで構成や内容の確認         |                                                                                                                                                         |                                  |                                                        |
| 課題: (事前課題) なし                                                             |                                                                                                                                                         |                                  |                                                        |
| 配付資料: ワークシート(授業中にメモを書き込めるよう、印刷しておくこと)                                     |                                                                                                                                                         |                                  |                                                        |
| 時間                                                                        | 内容                                                                                                                                                      | 利用機能                             | 備考                                                     |
| 開始 10~5 分<br>前                                                            | ● 入室開始<br>・入室してきた学習者に声かけ、接続(動画・音声)確認<br>Opt.「こんにちは」などチャットに書き込み。受講生にも書き込んでもらう。<br>・ワークシートを印刷してきたか確認(見せながら)。わからない場合は、「みなと」のライブレッスン説明の添付をダウンロードし、印刷するよう説明。 | 音声、ビデオ<br>画面共有(「みなと」LiveLesson1) | ワークシートは表現や語彙などを手元で参照して答えたり、自分に必要な表現をメモしたりできるように用意したもの。 |
| 00 分~05 分<br>(5 分)                                                        | ● ウォーミングアップ<br>・教師あいさつ<br>T「こんにちは。〇〇です。今日はよろしくお願いします」<br>・受講生の確認<br>(opt: Zoom の簡単な操作説明)<br>・適宜、ウォーミングアップ                                               | 画面共有(Zoom 説明 PPT)                | Zoom の操作説明 PPT は、ライブレッスン説明にも添付済みのものを使う。                |
| 5 分~15 分<br>(10 分)                                                        | ● スピーチ構成の意識化<br>・「観光」についてのスピーチ、どんなことを話すか(どんな話を聞きたいか)?<br>→おすすめの観光地、基本情報(地理・行き方・気候)、楽しみ、アドバイス<br>・基本的なスピーチの構成                                            | ワークシート p.1                       |                                                        |

## 8. 実施：教師の役割 (全体像の可視化、自学自習サポート、 フィードバック、つながる場づくり)

オンラインだと、学習者が何をすべきかわかっていない？  
やる気がなくて続かない？



# 全体像の可視化

例：スピーチA2（観光）

## The steps in this course

- STEP1 Course Orientation 
- STEP2 【Live Lesson】 Think about what to say
- STEP3 Write Speech Draft
- STEP4 Prepare for the Speech
- STEP5 【Live Lesson】 Speech Presentation
- STEP6 Self-Evaluation
- STEP7 Review what you have learnt

A teacher will support you all the way  
in order to learn how to make a good  
speech!



コースの  
全体像

コース概要やオリエンテーションで、  
コースの全体像をわかりやすく提示

# 全体像の可視化

例：スピーチA2（観光）

## 学習の 内容

学習ステップ  
や学習要素  
のタイトルを  
工夫して、  
学習内容を  
わかりやすく

| タイトル                                  | 公開日時<br>学習期限                         |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| Course Orientation                    | 2018/06/15 12:00<br>2018/07/24 23:59 |
| 【Live Lesson】 Think about what to say | 2018/06/15 12:00<br>2018/06/20 16:00 |
| Write Speech Draft                    | 2018/06/20 10:00<br>2018/06/24 23:59 |
| Prepare for the Speech                | 2018/06/20 10:00<br>2018/07/24 23:59 |
| 【Live Lesson】 Speech Presentation     | 2018/06/20 16:00<br>2018/07/11 16:00 |
| Self-Evaluation                       | 2018/07/12 12:00<br>2018/07/16 23:59 |
| Video (CarlosRedさん)                   | 2018/07/12 17:00<br>2018/07/24 23:59 |

## 学習の 順番

スケジュールや  
締め切りを明  
示し、学習の  
順番や進め方  
をわかりやすく、  
迷わないように

# 自学自習サポート

例：スピーチA2（観光）

## 学習者との連絡方法とタイミング

**お知らせ配信** コース参加者や個別の学習者への連絡メール

例：スピーチ原稿や自己評価の課題提出期限を一斉連絡  
教師の添削や自己評価用動画アップを個別連絡

**メッセージ** 学習者と教師の一対一のやりとり

例：個別の連絡や質問、相談、励まし

**タイミング** 励ましとして効果的なサイクルや日時

例：提出期限は月曜日、リマインドは水曜日、  
ライブレッスンは木曜日など



# フィードバック

## 課題の添削、評価コメント

作文、音声、動画、作品  
などの学習成果

## ライブレッスン

発話、会話、発表など

例：スピーチA2

**eみなのスピーチ練習** Speech (Sightseeing) STEP3 Worksheet

Nickname (user ID) 0000

今日は私の国の観光についてお話ししたいと思います。カナダで一番おすすめの観光地はケベック市です。フランス語でヴィル・ド・ケベックと呼ばれています。

↓

☆ General information (location, climate, etc.)

まずケベック市の地理や気候についてお話ししましょう。ケベック市は首都オタワの東400キロにあります。飛行機で1時間、車で4時半、電車で6時間です。ケベック州の異名はラ・ベル・プロヴァンスと言われてとてもきれいな州(FB)の、きれいな州という意味です。

気候は湿潤大陸性気候です。冬はとてもながくて、さむいです。雪がよく降って積もります。夏は熱い日が続いて、秋はとてもきれいです。とくに紅葉は美しいです。

**eみなのスピーチ練習** Speech A2 (Sightseeing) Tutor Support Course

Evaluation sheet

Nickname (user ID) 0000

★★★★ : You could do it well.  
★★★ : You could do it.  
★★ : You did it, but could do it better.

Total 50 / 50 points

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                          |                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. Contents                                                                                                                                                                                                                                                                                     | Was the content quite interesting for the audience?<br>Were you able to communicate the information in an easily understood manner, using the speech structure, phrases and vocabulary that you learned? | ★★★★ (25 / 25 points) |
| [Comment]                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                          |                       |
| スピーチの内容はとてもおもしろく、聴衆の興味を引きました(それで、後で質問もたくさん出していましたね)。学習したスピーチの構成と表現を使い、とてもわかりやすいスピーチでした。<br>The content of the speech was quite interesting and attracted the audience (it led many questions). You used the speech structure and expressions you learned, so it was easy to follow your speech. |                                                                                                                                                                                                          |                       |

# つながる場づくり グループ掲示板

自己紹介、Q&A、お題

Marugoto A1-1 (Katsudoo & Rikai) Tutor Support Course\_K...



参加人数 19名  
最終更新日 2016年12月1日

参加者一覧

グループ削除

Marugoto A1-1 (Katsudoo & Rikai) Tutor Support Course\_KC16\_MGRT\_A101\_EN01

This is the Marugoto A1-1 (Katsudoo & Rikai) Tutor Support Course group. Interact with friends you are studying in this course together with.

掲示板を検索する  検索

最終更新日 2016年12月1日 | コメント 7件

Notifications



最終更新日 2016年11月18日 | コメント 7件

Lesson10 How do you say "Happy Birthday" in your language?



2020/03/26

2019/11/05

17 2019/09/15

TannaE (Ta\*\*\*\*)

わたしはカーレが大好きです。やさいも大好きです。くだものも好きです。

ヘイリー (ha\*\*\*\*)

わたしは にくと さかなと くだものが 好きです。 やさいを あまり たべません。

通報



## 教師、仲間とのやりとり・交流

成果物へのピアコメント

4 2017/07/29

Chase (Euse22)

メキシコからこんばんは！  
皆さんの録音をちゃんと聞きました、よく頑張りましたね！とても感心です！

削除 通報

3 2017/07/27

amerojo (ameroj)

みなさんはよかったですよ。でもPhの録音はみじかいでした。すげ、私は真なるマンガを話したいです。それから、がんばります。

削除 通報

2 2017/07/26

Mariu (maku96)

Amerujoとbryanとchaseとcherryとpearとmariskaとギブいい声とおもいます。すごい練習ですよ。Phの録音は聞こえませんが、マクシマはちょっと違いましたね。Tenshiの声はいいですが感情がない。私の録音は申し訳ございません、すみません。

教師や仲間など人とのつながりを感じながら学ぶことは動機づけに効果的



# 実施：教師の役割

- 全体像の可視化

コース全体像をコース概要やオリエンテーションで明示  
学習の内容、順番をタイトルやスケジュール設定で

- 自学自習サポート

全体、個別の連絡方法とタイミングで自学自習を支援

- フィードバック

課題の添削や発表の評価コメントなど学習成果への  
フィードバック

- つながる場づくり

グループ掲示板など交流、コミュニケーションの場に

# コロナ禍後のKCの日本語研修へのヒント

オンラインへの切り替えは比較的スムーズに

- コロナ禍前の「みなと」のコース制作、運用経験
- 研修担当教師も全員「みなと」の授業を担当

## 日本語研修

オンライン研修としてデザインし直し、実施

Zoom、SlackやSNS、Google Driveなどを利用

## ポイント

「みなと」の運用を通じたICTスキル？

非同期、同期ですべき活動を踏まえたコースデザイン、  
学びを支援する教師の役割の意識づくり

# これからの日本語コースの制作、運用に向けて

## これからの教育

ICTの活用、ビッグデータやAIなどの技術の発展

→各学習者に最適化された学習内容の提供

→フィードバックの自動化

自学自習（非同期）、対面orオンライン授業（同期）  
を組み合わせ、学習者に最適な学びを提供する時代

## これからの教師に求められる能力や役割

対面授業の経験を活かしつつ、教育工学等の知見  
も踏まえ、コースや教材をデザインし直し、学習をサポート、  
ファシリテート

## 9. ITを有効に活用したチームでの 教育実践に向けて

# 全体討論に向けて

チームでコースデザイン、制作、運用を協働できる？

コースデザインのし直し（分析、設計、開発、実施、評価）

コーディネータ？授業担当者？

ノウハウ移転、意識づけはどうすれば？

自学自習も含めたコース、教材の開発は大変そう

既存のeラーニング教材は活用できる？

学習者は自学自習、教師の役割は？

# 全体討論に向けて

チームでコースデザイン、制作、運用を協働できる？

コースデザインのし直し（分析、設計、開発、実施、評価）

コーディネータ？授業担当者？

例：スピーチA2コース

分析、設計（3人で）

開発（Stepごとに分担して開発⇒検討⇒修正⇒試行）

実施（コース担当、授業担当で役割分担フロー）

評価（アンケート等をもとにふりかえり、終了レポート）

⇒各プロセスの改善

ノウハウ移転、意識づけはどうすれば？

例：「みなと」コース担当者研修（今日の資料、オンライン化も）

講師向け説明会、検討会、コース運用を通じて

# 全体討論に向けて

自学自習も含めたコース、教材の開発は大変そう

既存のeラーニング教材は活用できる？

学習者は自学自習、教師の役割は？

例：まるごとコース 自習＋授業（週2回）

かつどう自習30分⇒授業45分 聞く、話す、生活と文化

りかい自習60分⇒授業45分 ことば・文法・文字、読む、書く（FB）

オリエン、L1-L10、まとめ、テスト 15回

⇒反転的に利用することで、授業を活性化し、より深い学びに  
効率的な上達にも

教師の役割は日本語の上達のための  
学習（教育）システム全体の設計

# 参考文献

## KCの「みなと」日本語コース開発、活用関連の論文・発表 1

- 熊野七絵（2021）「『みなと』の日本語コースのコースデザインと教材の工夫」、山田智久・伊藤秀明編『オンライン授業を考える 日本語教師のためのICTリテラシー』、pp.93-113、くろしお出版
- 山田智久・北村祐人・伊藤秀明・熊野七絵（2020）「デジタルリソースのキュレーションを考える～事例と視点の共有を目指して～」パネル発表、発表3「学習ニーズや環境とデジタルリソースの提供形式を考慮したキュレーション」、2020年度日本語教育学会秋季大会予稿集
- 熊野七絵、伊藤秀明、北村裕人、山田智久（2019）「公的機関（JF、大学、文化庁）のeラーニング教材を日本語教育現場で活用するためには何が必要か」、パネル発表、発表1「JFのeラーニングと日本語教育現場での活用事例」、CASTEL/J2019予稿集
- 武田素子・熊野七絵・千葉朋美・檜山治樹（2019）「まるごと日本語オンラインコースの開発と運用－自学自習を継続させるための工夫とは－」『ICT×日本語教育情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』pp.236-252、ひつじ書房
- 熊野七絵、和栗夏海(2018)「JF にほんごeラーニングみなと」の自習コースの教育現場での活用を考える－まるごと、ひらがな、アニメ・マンガの日本語、俳句コースを例に－」交流ひろば、2018年度日本語教育学会秋季大会



## KCの「みなと」日本語コース開発、活用関連の論文・発表 2

- 伊藤秀明・熊野七絵・蟻末淳・山田智久・今井新悟（2018）「ICT/AIと日本語教育—これから考えていかなければならないこと—」パネル発表、発表者2「ICTを利用したeラーニング開発と学習者ニーズ」、2018年日本語教育国際研究大会予稿集
- 千葉朋美・熊野七絵（2018）「『JFにほんごeラーニング みなと』における日本語オンラインコースの開発と運用—eラーニングでの自学自習を継続するために—」、2017年ヨーロッパ日本語教育シンポジウム“Learning and teaching Japanese in Europe. Why? - Voices from the field -”、『ヨーロッパ日本語教育22 2017ヨーロッパ日本語教育シンポジウム報告・発表論文集』pp.372-377
- 千葉朋美・武田素子・廣利正代・笠井陽介(2018)「まるごと（A1）教師サポート付きコース」の運用と成果—オンラインコースにおける学習者支援—」『国際交流基金日本語教育紀要』第14号、pp.51-66
- 武田素子・北口信幸・大西薫（2017）「動機付けを目的とした「アニメ・マンガの日本語」オンラインコースの制作と運用」,『2017年度日本語教育学会秋季大会予稿集』pp.417-422.
- 武田素子・熊野七絵・千葉朋美・笠井陽介・石井容子・前田純子・北口信幸（2017）「まるごと（A1）日本語オンラインコースサイトの開発」、『国際交流基金日本語教育紀要』第13号pp.133-140
- 信岡麻理・和栗夏海・伊藤秀明・山下悠貴乃・川嶋恵子・三浦多佳史（2017）「『JFにほんごeラーニング みなと』の構成と今後の展望」、『国際交流基金日本語教育紀要』第13号、pp.125-132

## 参考書籍

- R.M.ガニエ・W.W.ウェイジャー・K.C.ゴラス・J.M.ケラー（著）、鈴木克明・岩崎信（監訳）（2007）『インストラクショナルデザインの原理』
- J.M.ケラー（著）、鈴木克明（監訳）（2010）『学習意欲をデザインする：ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』北大路書房
- 国際交流基金（2010）『まるごと 日本のことばと文化 入門（A1） かつどう・りかい』、三修社
- 国際交流基金関西国際センター編（2004）『初級からの日本語スピーチ—国・社会・文化についてまとめた話をするために—』、凡人社
- 鈴木克明（2002）『教材設計マニュアル：独学を支援するために』、北大路書房
- 當作晴彦（監修）、李在鎬（編者）（2019）『ICT×日本語教育-情報通信技術を利用した日本語教育の理論と実践』、ひつじ書房
- 松田岳士、原田満里子（2007）『eラーニングのためのメンタリング』、東京電機大学出版局出版局
- 山田智久・伊藤秀明編『オンライン授業を考える 日本語教師のためのICTリテラシー』、くろしお出版
- 横溝紳一郎、山田智久(2019)『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング』、くろしお出版
- ライゲルース, C. M. ・ビーティ, B. J. ・マイヤーズ, R. D. （2020）『学習者中心の教育を実現するインストラクショナルデザイン理論とモデル』（鈴木克明監訳）、北大路書房

## 質疑応答 2

司会：ただいまのご講演について短い質問を 2 つ 3 つ受け付けたい。

フロア 2：自己評価を動画で出す理由について説明していただきたい。

熊野：自分のスピーチ発表の動画を振り返って評価をする。動画を見て質疑応答に上手く答えられたかなどの評価を書く。

フロア 2：動画を見て評価を書くのか。

熊野：そうだ。自己評価を動画で出すのではなく、自身の動画を見て自己評価をする。

## 全体討論

## 全体討論

登壇者：李 在鎬（早稲田大学）、熊野 七絵（国際交流基金関西国際センター）、義永美央子（大阪大学）  
全体討論司会 西口 光一（大阪大学）

（以上、敬称略）

義永：さまざまな IT リソースがある中で、それを選び、提示することがこれからの教師には必要だと改めて感じた。自学自習のサポートと自律学習のサポートの違いについて、熊野先生には、自律学習と自学自習をあえて区別しているのかを聞きたい。

熊野：自学自習と教師のサポートとを組み合わせた上で、一人で学ぶことを自学自習と呼ぶ。自分で学習を管理できることを自律学習としている。

これからの教師にとっては ICT キュレーションスキルが必要。各自のニーズに合わせて、コースはどういう人に向いていて、サイト、アプリはどのようなものかなど、リソースの特性を踏まえて紹介することが大事。「みなと」や「NIHONGOe な」などのポータルサイトも活用できる。

司会：李先生からも何か。

李：自律学習をどうサポートするかは大事な問題。大木充先生が『CEFR の理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト』の中でアンリ・オレックの議論を紹介する形で自律学習は一人での学びではなく、自分で自分の学習を管理することだと言っていた。それには訓練が必要。自分の学習を自分で管理できるような力を教師などファシリテーターが訓練したうえで学習を進めるべきだと思った。

（フロアからの質問）

司会：それでは、フロアからご意見・ご質問をお願いしたい。

司会：熊野先生は A2 ゴールで対面授業を実施していたようだが、その時の教師の役割は熊野先生の話プラス何かあるか。

熊野：コースデザインなども含めて授業を教師が担っている。

司会：対面のコースとオンラインコースでゴールの達成状況に違いはあるのか。オンラインコースの学習者は既習者なのか。

熊野：教師の役割は違うと言った方がいいかもしれない。「みなと」で初めて日本語を学習する学習者を対象として教サポコースを実施した際の実感としては、日本語の到達レベルは、総合コースではオンラインコースであっても一定の程度に達している。ある程度自律的な学習者の場合であるが。

司会：外交官の研修の場合は対面でできるが、自学自習の方が経費を減らせるのでは。

熊野：外国語学習に慣れていない人も多いので、対面でなければ難しい場合も多い。

司会：対面の場合の教師の役割は手取り足取りなのか。

熊野：それだけではないと思う。授業のほうがり取りや交流、フィードバックなど日本語を使う場としては全然違う。

司会：その場合のフィードバックというのは、彼らが話している現場でのリカーストとか話すことのサポートではないか。オンラインコースではプロダクトに関するフィードバックのようだが。

熊野：課題の添削などはそうだが、授業内でのフィードバックはある。

司会：ライブ授業の場合は、授業中の学生のパフォーマンスをサポートするとかリカーストというのはあるということか。ただ、熊野先生のお話では、そのことは言及されていなかったようだ。

熊野：やりとりのフィードバックの場だと思っているし、学習者からのフィードバックというものもある。使っている日本語が通じているのか、発話の確認をしたり、その次のレベルアップにつなげるにはどうしたらいいのか、など。そのため、ライブレッスンをつけられるオンラインコースの場合は、そこに特化したい。

司会：フロアの方、どうぞ。

フロア3：英語教育で悩むのはプレゼンテーションさせたりするときに Zoom だとチャットにコメントを書いてももらうなどできるが、熊野先生のように動画にコメントをつけてもらうとなると、動画が重いのでちゃんとしたプラットフォームが必要だと思う。そういったことが可能になるシステムがあれば教えてほしい。非常勤なので大学の LMS が使えない。また、フィードバックはどこまで精緻にしているのか。

司会：前半については李先生、どうですか。

李：早稲田では Moodle を使っている。重たい動画の場合は Google ドライブにアップロードしてリンクを貼り付けてもらう、ユーチューブにアップすることもできる。

熊野：ループリックはこちらがある程度提示する。スピーチの内容がこうだったかと記述したものや、質疑応答に簡単なものであれば答えることができたかというような A2 レベルの Can-do 文言をループリックにし、評価する。教師からは次のステップに進むにはこういうところが足りなかったとコメントしたりしている。

司会：フロアの方からの質問があります。今回のシンポジウムのテーマの一部でもあります、「チームでの教育実践の可能性」については、どのように可能になるでしょうか。従来型教師と IT エキスパート教師の「分断」はどのように克服できるでしょうか。）李先生からどうぞ。

李：分断の克服は難しいかもしれない。大学では課題を共有すれば、その部分については一緒に力を合わせられるかもしれない。分断はあるものとする。私は早稲田では日本語教育センターに所属していないが、IT 関係は別のセクションがある。IT は専門家に、教育は教師にと分業するのがいいかもしれない。

熊野：関西センターでは何人かのチームがある。スピーチのコースは3人だった。狙いを共有した上で、ステッ

ブのどこを担当するのかを決めて作成した後、話して修正し、実際に使ってみて修正する。コーディネーターに当たる人は全体のフローを作り、授業の担当者は授業を行う。分担のノウハウについては、「みなと」でコースを作る時に、必要な視点を資料化し、担当者向けの研修も実施している。複数で担当することで、お互いにノウハウを学べるようにしていったり、授業の担当者は、そういうこと（コース全体のねらいや各ステップ、授業の役割）を知ってから担当すると変わってくると思う。

司会：フロアの方からの質問（どなたに質問というわけではないのですが、ご意見聞けたらと思うことを3つ。

1) 課題提出がオンラインに移行する中で、手書きの課題の必要性をどう考えますか。例えば漢字など。2) AI 翻訳の精度がここまで上がった今、語学教師がそれに仕事を奪われるのではなく、逆に活用できる方法はあるでしょうか。3) 私は A,B,といった学校の成績をつけなければならない立場です。自律学習、調べ学習など、点数化に馴染まない学び方が増えた時、何をどう点数化するのがいいか悩みます。) について李先生、どうですか。

李：手書きの必要性について、アカデミックな活動についてはもうしないと思うのでそんなにすすめなくていいと思う。漢字の研究者も書いて覚える練習はいらないかもと言っていた。AI 翻訳については、学生に聞いてみたことがある。半分くらいは反対・半分くらいはいいんじゃないか、ということだった。短期的にはいいが、長期的には損するのは自分という意見もあって納得した。翻訳機は今後もますます出てくると思う。5 年・10 年後には翻訳機を使うのが当たり前になりそう。文化学習の延長として言語学習を捉えると、それは AI にはできない。3 目について、調べ学習は添削が難しいが、私は文字数を数えて点数化している（計量国語学などでは長さは重要な指標として認知されているので）。オンライン学習ではどれくらい頑張ったかを評価するのが大事だが、それを教師がするのはどうかと思うので、文字数を数えている。

司会：1 番については、集中コースの秋学期にオンラインでコースをした。ビギナーから始まった人たちだった。最初はローマ字でもいいということにしたが、それを漢字交じりのものに直してそれを返していた。すると、三分の二くらいは自分の言いたいことを多少なりとも日本語で入力できるようになった。2 番目は、担当した中級前半クラスで翻訳機をどうぞ使ってくださいということにしたが、エッセイシェアリングの時には学生同士で読み聞かせをして、漢字にフリガナをつけさせるようにした。すると、適当に翻訳した文を作る人はいなかったの、シェアリングをさせる方法もある。

熊野：フロアからの質問、(学習者同士の活動をオンラインでどう実現できるかに関心があり、アフレコの例が参考になった。成果について、対面とオンラインで違いがあるか、) について、アフレコとして、みんなで一つのものを発表するという達成感是对面の方があがるが、自分に合わせてなりたいキャラを選べる点はオンラインの方がいい。他者のアフレコにコメントしあうのはオプションだったが、8 割以上の人が他の人の音声聞いていた。動機付けの面で（ピアコメントを取り入れたのは）よかった。対面とオンラインで得ら

れるものの違いはあった。

司会：IT 教師と従来の教師のデジタルディバイドについては今後も課題を共有しながらやっていくしかない。

対面教師のコントリビューションも、IT エキスパートは上手に活用すべきだが、IT エキスパートの方が優位になっていくのかもしれない。



付録：過去の大阪大学専門日本語教育研究協議会の開催状況

1. 第1回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「大学院レベルの専門日本語教育とは何か」

日時：2007 年 3 月 13 日（火）13：00～17：50

場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

2. 第2回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「大阪大学における専門日本語教育のさらなる定着に向けて

—留学生・指導教員とのディスカッションを通して—」

日時：2009 年 3 月 10 日（火）13：00～17：30

場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

3. 第3回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「専門日本語教育におけるライティング能力の養成

—留学生と日本人学生の双方に対する教育の共通課題—」

日時：2010 年 3 月 9 日（火）13：00～17：30

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室 1

4. 第4回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「キャリア形成につながる専門日本語教育を考える」

日時：2011 年 3 月 8 日（火）13：00～17：00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室 1

5. 第5回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「日本語教育のスタンダードの課題と展望」

日時：2012 年 2 月 15 日（水）13：00～17：00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室 1

6. 第 6 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「研究留学生のための専門日本語教育を考える」

日時：2013 年 2 月 19 日（火）13：00～17：00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター会議室 1

7. 第 7 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「上級レベルの専門日本語教育－理論と実践－」

日時：2014 年 2 月 17 日（月）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

8. 第 8 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「グローバル時代を生き抜く力の養成と大学における日本語教育を考える

－大学から社会への橋渡しを視野に－」

日時：2015 年 2 月 17 日（火）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター 2 階 会議室 2

9. 第 9 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「専門日本語教育における IT 活用の可能性」

日時：2016 年 2 月 16 日（火）13:00～16:55

場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

10. 第 10 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「内容言語統合型学習（CLIL）の実践に向けて」

日時：2017 年 2 月 21 日（火）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

11. 第 11 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「学習者オートノミーを育む言語学習とその支援」

日時：2018 年 2 月 16 日（金）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス IC ホール Room 5 & 6

12. 第 12 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「市民性教育と日本語教育」

日時：2019 年 2 月 19 日（火）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター 1 階 研修室

13. 第 13 回大阪大学専門日本語教育研究協議会：

「留学生大量受け入れ新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」

日時：2020 年 2 月 18 日（火）13:00～17:00

場所：吹田キャンパス コンベンションセンター 2 階 会議室 2